平成23年3月
勝浦市議会定例会会議録（第2号）

平成23年3月17日

○出席議員 17人

1番 岩瀬洋男君	2番 中村一夫君	3番 刈込欣一君
4番 土屋元君	5番 忍足邦昭君	6番 根本譲君
7番 高橋秀男君	8番 板橋甫君	9番 丸昭君
10番 八代一雄君	11番 岩瀬義信君	12番 寺尾重雄君
13番 渡辺玄正君	14番 児安利之君	16番 伊丹富夫君
17番 黒川民雄君	18番 末吉定夫君	

○欠席議員 なし

○地方自治法第121条の規定により出席した者の職氏名

市長 山口和彦君	副市長 杉本栄君
教育長 松本昭男君	総務課長 岩瀬章君
企画課長 関利幸君	財政課長 藤江信義君
税務課長 花ヶ崎善一君	市民課長 佐瀬義雄君
介護健康課長 西川一男君	環境防災課長 玉田忠一君
	兼清掃センター所長
都市建設課長 藤平善之君	農林水産課長 関重夫君
観光商工課長 近藤勝美君	福祉課長 関修君
水道課長 藤平光雄君	会計課長 渡辺秀行君
教育課長 中村雅明君	社会教育課長 黒川義治君

○職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長 守沢孝彦君	議事係長 大鐘裕之君
------------	------------

議事日程

議事日程第2号
第1 一般質問

開 議

平成23年3月17日(木) 午前8時40分開議

○議長(板橋 甫君) ただいま出席議員は17人で定足数に達しておりますので、議会はここに成立いたしました。

これより本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元へ配布したとおりでありますので、それによってご承知を願います。

一 般 質 問

○議長(板橋 甫君) 日程第1、一般質問を行います。

質問順序表の順序により順次質問を許します。最初に、高橋秀男議員の登壇を許します。高橋秀男議員。

[7番 高橋秀男君登壇]

○7番(高橋秀男君) おはようございます。冒頭、私は今月11日に発生しました東日本大震災で被災されました大勢の方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、津波等でお亡くなりになられました大勢の方々に深く哀悼の意を表する次第であります。

当地方も太平洋プレートのゆがみ、あるいは関東大震災後の年数等からしても、いつ東海大地震が発生しても決して不思議ではないとの地震学者の発言も聞かれます。改めて行政に対しまして、地震、津波に対する防災体制の確立を求めるところであります。

それでは、通告いたしました保育所統合とこども園問題について質問に入ります。さきの市長選において、多くの市民の負託にこたえて当選されました山口新市長が、この房総の地でひとときわ光る勝浦のまちづくりを理念として、専念、奮闘されますよう期待するところでありませぬ。

市長は、さきに行われました選挙中、リーフレットあるいは街頭演説で保育所問題を大きく取り上げました。私は、市長のマニフェストと理解し、保育所統合とこども園について質問をいたします。

現在、中央保育所は、定員150人に対しまして入所児童は150人の満員であります。一方、郁文保育所は、定員60人に対して入所児童8人、東保育所は、定員90人に対して入所児童16人と、中央保育所以外の保育所は、年々入所者が減少の傾向にあります。そのような現況の中で、各保育所とも木造建築物であり、中央保育所は築後41年、郁文保育所は築後45年、東保育所は築後44年を経過し、建物の老朽化が進む中、改装、改善を重ね、使用に支障はないとのことですが、耐用年数はとうに経過し、特に大事な耐震性が極めて脆弱である点を危惧するわけでありませぬ。

現在、幸いにも小中学校は、耐震構造あるいは耐震補強工事が年々施工されていますが、社会的に見ても一番弱者で、地震等の災害に弱い乳幼児収容施設を耐震構造として、保護者が安心して託児できる施設環境整備のためにも、保育所の統合が必要不可欠と認識しますが、市長の見解をお聞かせください。

さらに、こども園についてであります。内閣府は2010年11月1日に2013年度から10年間をかけて、幼稚園と保育所を廃止して、新たに設けるこども園に統合する案を提示、目的を親の働き方や所得に関係なく、地域の子供たちに幼児教育も保育一体で提供すると説明されました。

こうした国の動向も多様な保育ニーズや社会の変化に対応できる新しい時代にふさわしい、幼稚園、保育所の再編整備を、保育内施設、保育者等、幼保一体化の方向で推進していく必要があるととらえ、幼保一体化により内容の充実した施設環境は、幼稚園児、保育所児童の活動内容が豊かになる上、幼稚園児にとっては乳児から2歳児の生活を間近に見たり、触れ合ったりすることができ、生活体験の幅が拡大し、集団社会での人格形成の基礎をより深く学ぶことができる上、さらには発達段階の最適な指導ができ、職員の研修も深まり、保育内容の指導の多様化、質的向上が期待できます。

当市の幼稚園、保育所は、長年にわたり幼児教育に多大な役割を果たすとともに、優秀な子供たちを育成してきたわけですが、各保育所の老朽化とともに幼稚園も築後37年を経過し、現在に至っているわけですが、さきに申しあげましたとおり、保育所ともども建物の老朽化は避けられません。

以上の観点から、幼保一体化のこども園とすることで、耐震構造物で施設内容の充実、さらには環境整備の一環で駐車場等を完備することで、保護者、指導者も安心感が増大し、感性豊かで生きる力を備えた子供たちが育成されると思われませんが、この問題についての市長のお考えをお尋ねいたします。

以上で私の1回目の質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 市長から答弁を求めます。山口市長。

〔市長 山口和彦君登壇〕

○市長（山口和彦君） ただいまの高橋議員の一般質問に対し、お答えします。

初めに、保育所統合についてであります。議員ご指摘のように、各保育所施設につきましては、建築から長い年月を経て改修工事等を行っておりますが、ほとんどが木造、老朽化施設であり、平成7年に上野保育所の改築を行った以降、他の施設についても修繕等の維持管理を行い、保育に支障のないよう、保育環境の整備に努めておる状況であります。

今後におきましては、少子化に伴う入所児童の減少や小規模保育から適正規模での保育による適応力や社会性を育むなど、児童の健全育成への効果が期待されるため、保育環境の充実、向上を図る観点からも保育所統合の推進にあわせて、中央保育所の改築は必要であると考えます。

次に、幼保一体化したこども園の設立ですが、議員ご指摘のとおり、幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であります。この重要な幼児期の教育と保育を幼稚園・保育園が担ってまいりました。

幼稚園の園舎も昭和49年に竣工し、施設も老朽化しており、保育園と施設を共有することについて検討すべきところですが、現在、国においては子ども・子育て新システム検討会議で幼保一体化について議論しており、当初は、幼稚園と保育所を2013年から10年程度かけてすべて幼保一体の新施設（仮称）こども園に移行させる構想でしたが、本年になり、当面は地域の実情に応じて（仮称）こども園と幼稚園、保育所を並立する案や、保育所だけを平成23年度にこども園に一体化する案が示されております。

今後の関係法案の成立を含め、国の動向を注視してまいりたいと考えております。

以上高橋議員に対する一般質問の答弁を終わります。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。高橋秀男議員。

○7番（高橋秀男君） 答弁をいただきまして、感謝申し上げます。私は保育所の統合を解決するには大変な努力を要すると思います。保育所、あるいは学校は、その地域の文化の拠点として長年親しんできたわけでありますから、いざ廃園となりますと、いろいろな感情が交差し、複雑な思いに駆られると思います。私も小学校の廃校を体験しています。

とはいえ、少子化に伴う入所児童の減少は、保育所体系を維持できない状態になっております。大勢の子供たちが集団で生活する、そして互いに切磋琢磨して成長するのが大事なことと思います。

特に次世代を担う児童ですから、いろんな諸問題を超越して、耐震構造で施設内容の充実したセンターの設立が必要不可欠であります。市長も今、おっしゃっていただきました。心強い感がいたします。

ただいま質問いたしております保育所の統合問題は、私は今、唐突に申し上げているわけではありません。去る平成20年3月議会の一般質問で、保育所統合と幼保一元化と題しまして提起しております。また、その質問に先立ちまして、平成19年11月、教育民生常任委員会一同と教育長、教育課長、福祉課長の方々にも参加していただきまして、幼保一元化を他市に先駆けて実施しました先進地、静岡県掛川市乳幼児センターすこやかなの行政視察を行いました。これは昔、東海道五十三宿の一つで有名な掛川宿の市でございます。

市の人口は11万5,000人、6年の歳月をかけて市内21カ所の保育所、幼稚園を統合して8カ所の幼稚園に再編いたしました。そのとき、極めて印象深かったことは、1中学校に対して1センターです。これはかなり参考にすることがありました。

それにつきまして、忘れがたいパンフレットがございますので、以下、説明し、それによって質問させていただきます。

幼稚園と保育所が一体化した幼保園でございますが、幼稚園児数が140人、保育園児が120人、合計260人の施設でございます。教職員は38名、そして敷地面積が6,790平方メートル、構造は、重量鉄骨の耐震を主体としたそうです。平屋一部2階、2階は事務室でほとんどが下の幼児の部分でございます。屋根はガルバリウム鋼板ふき、これは地震等に非常に強い材質だそうです。そして、外壁は中空押出成形セメント板張り、これも材質は非常に軽くできているそうです。そういう施設を見学してまいりまして、参考にして、そのときに質問させていただきました。

訪問したときに、私たちを出迎えてくれました子供たちがすばらしい笑顔、健やかな形で、これは完備した設備で保育されているのではないかと思ったところでございますが、いまだにその笑顔が脳裏から忘却することができない、すばらしいシーンでございました。

また、そのときの質問で、保育所統合のタイミングと合わせて、行政ではこの問題について十分研究されておるとのことでございます。

現在、喫緊の問題として1つだけお聞きしたいのは、先ほど申し上げました中央保育所150人定員のところを150人満員でございます。新たな入所希望者が出たときに、どのように対処されますか、この1点をお聞きいたします。

先ほど市長もこども園について触れていただきました。今、喫緊にできる、こども園も2013年を待たなくても、今、認定こども園として各地で設置されているのです。これは言うなれば、保育所と幼稚園が1カ所に同居ということではなくて、建物の中で一緒に活動できる施設なんですね。ですから、立派な施設ができれば、両方がそこで育児できる。全国で現在532カ所ぐらい設置されています。ですから、今、現実の問題として少しでも早く、この体制に取りかかっていたいただきたいのです。私がこの質問書を出したのが今月の7日でしたが、その後、あのような大惨事が起きております。改めてこの乳幼児センターについて取り組んでいただきたい。

先ほどお答えもいただきましたが、これは財政問題も絡むとは言いながら、2013年まで待つことなく、この認定こども園について少しでも早く取りかかっていたいただきたい。

先ほど話しました掛川市も認定こども園というのは2006年から進めていますが、2003年に先駆けて掛川市は設置しているのです。文科省からも厚労省からも、ちゃんと助成は出たそうです。ですから、少しでも早く取りかかっていたいただきたい。

今回、改めて申し上げますが、発生しました東日本大震災で、自然の猛威と津波の恐ろしさを目の当たりにメディアを通して見まして、慄然とした思いをいたしております。当市はそのような被害から免れましたが、幼児等を預かる施設、耐震性のある施設を改めて持つ必要があると痛感している思いでございます。

そこで、改めてまして、少しでも早い取り組みについてのご答弁をいただければ幸いです、よろしく願いいたします。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。関福祉課長。

○福祉課長（関 修君） お答えいたします。中央保育所の入所定員150人を超えた場合の対応についてでございますが、保育所の入所定員につきましては、平成10年2月に厚生労働省児童家庭局課長より通知がなされておまして、定員を超える入所の場合、年度当初において月平均入所率で120%以上の定員を超えた場合に定員の見直し整備を図るべきという通知がなされております。仮に中央保育所150人に対しますと、180人まで受け入れることが可能でありますので、それ以内であれば、現定員のまま受け入れることが可能となります。この定員120%のオーバーは、過去2年間の平均120%を超えた場合となっておりますので、例えば郁文保育所8名が入所したとしても180名以内となりますので、受け入れは可能となります。以上です。

○議長（板橋 甫君） 次に、松本教育長。

○教育長（松本昭男君） 幼保の一体化の件につきましてお答えしたいと思います。議員ご指摘のとおり、幼児期の保育、教育というのは人間形成の基礎でありますから、大変重要なことだろうと思います。それを担う幼稚園、保育所が制度も充実し、そして施設設備も充実する、それは全く望ましいことでもありますので、ぜひ進めなければいけないことだろうと思っております。

ただいま幼稚園の施設は大変古くなっておりますし、また子供の数も50人と大変少ない状況であります。ですから、一体化するということについては大変合理性があるのではないかと思います。また、一体化することによりまして、地域の子供たちが一緒に保育を受ける、教育を受けるということも可能でありますし、幼稚園、保育園それぞれの先生方の資質をお互いに協力することによって、よりよい保育、教育ができると考えておりますから、そういう意味では大変メリットもあろうかと思います。ただ、保育、あるいは教育に対する保護者の要望もあろうかと思いますし、また、例えば保育料とか、そういう点の問題もあろうかと思います。そう

いう意味では、ただいまの市長の答弁にもありましたけれども、今後の保育、幼児の教育をどうするかという制度の問題につきまして、国で検討しておりますので、その結果を見るということも大切であろうとは思っています。幼稚園といたしましては、保育所の統合が今後、総合計画の中に位置づけられると思いますので、私どもは既に担当課で研究しておりますから、そういうことをにらみながら、この幼保を一体化することにつきましては検討できると思っております。以上でございます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。高橋秀男議員。

○7番（高橋秀男君） いろいろ答弁をいただきまして、ありがとうございます。課長に申し上げますが、私はたびたび中央保育所を見ているのです。平成20年のときに142人だったのです。ちょうどお昼寝の時間に行ったのです。言い方は失礼かも知れませんが、足の踏み場もない、廊下まで布団なんか出ている状態なのです。それを今150人でしょう。まだ通常では収容可能ということなのですが、それは余りにも現状とかけ離れていると思います。少しでも早く安心して託児できる施設の設立を改めて痛感しているのですが、これについて、極めて恐縮に存じますが、市長の答弁をもう一回、お願いいたします。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） ご指摘ありましたように、確かに今、子供たちが安全で安心できる教育環境づくりということで、積極的に取り組んでまいりたいと思います。そのためには、保護者等とも十分話し合いをしながら、検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしくようお願いいたします。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。高橋秀男議員。

○7番（高橋秀男君） ただいま市長から力強い前向きな答弁をいただきました。ぜひとも、頑張って推進していただきたい。心から要望いたしまして、私の質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） これをもって高橋秀男議員の一般質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 続きまして、忍足邦昭議員の登壇を許します。忍足邦昭議員。

〔5番 忍足邦昭君登壇〕

○5番（忍足邦昭君） 私は、議席番号5番の忍足邦昭でございます。まず、質問に入る前に一言申し上げさせていただきます。

去る3月11日の午後、三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0という未曾有の巨大地震と大津波により亡くなられた多くの方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、今なお行方不明となっておられる方々の安否の確認が一刻も早くなされることを願うものであります。

また、家屋、車、船舶等、多くの財産や仕事を奪われ、避難所で不自由な生活を余儀なくされている被災者の方々には心からお見舞い申し上げるとともに、被災者に対する手厚い支援が速やかに講じられることはもちろんのこと、一日も早い社会復帰が図られるよう、切に願うものであります。

そして、このたびの被災者に対しては、国民全体で支援の手を差し伸べていくことが求めら

れ、そのために本市としても市を挙げてできる限りの支援策を速やかに講じていく必要があるものと考えます。

幸い、本市においては大きな被害を受けることなく済んだところでありますが、今回の大惨事を教訓として、今後の災害対策に万全を期すよう、市を挙げて取り組んでいかなければならないことは言うまでもありません。

それでは、質問に入らせていただきます。

私は4年前の市議会議員選挙におきまして、市民の声を市政に反映させるため、市民の声を市政につなぐパイプ役となることを目指して立候補し、初めて議員として議会活動に携わらせていただき、今日まで過ごしてまいりました。この間、果たして当初の目的どおりの活動ができたかどうかはわかりませんが、できる限り、市民の声に耳を傾け、それを議会や行政当局に伝えてきたつもりであります。

そこで、今回もそのような市民の方々の声をもとに、市民の視点に立って、さきの通告に従いまして、次の3項目について質問いたします。

なお、今回の質問が山口新市長にとって市長就任後、最初の議会での質問となりますことは、大変光栄に存ずるところであります。

そこで、市長及び職員の皆さんも、12年ぶりに市長がかわったことから、初心に帰って、前向きでかつ明快なご答弁を期待するものであります。

それでは、まず第1項目の市長の政治姿勢について伺います。山口市長は、このたびの市長選挙に際し、4名の立候補者という本市における最近の選挙では非常に厳しい選挙選を勝ち抜かれて、見事、当選されました。心からお祝い申し上げます。

さて、本市の現状は、少子高齢化や若者の地元離れによる人口の減少化、財源不足による財政の硬直化など、多くの難題が山積し、市民に閉塞感を与えているなど、非常に厳しい状況にあることはご承知のとおりであります。

このような現状をいかに打開するかを主張したマニフェストを掲げ、当選された山口市長には、多くの市民が新市長の手腕によって勝浦市を変えてくれる、このように期待し、見守っているものと思います。しかしながら、反面、市長選挙において、山口市長の得票数を超える不支持票があったことも決して忘れてはならないことであります。

そこで、行政経験の少ない反面、新鮮味のある山口市長におかれましては、持ち前のエネルギーギッシュな行動力に加え、的確な決断力と強力なリーダーシップを大いに発揮され、市民の期待にこたえていただきたいと思います。そこで、次の2点について伺います。

まず第1点目として、市長は市長選挙の際に7本の柱とその具体化のための17項目の政策を掲げたマニフェストを公表されましたが、その実現化に向けての期間と数値目標を作成するお考えはあるかどうか、伺うものであります。

第2点目は、マニフェストの中で市長及び特別職の給与を20%カットすることとなっておりますが、いつから実施するお考えなのか、伺いたいと思います。

次に、第2項目の新勝浦市基本構想に基づく基本計画及び第1次3か年実施計画について伺います。

昨年の9月議会において、平成23年度を初年度とし、平成34年度を目標年次とする新勝浦市基本構想が議決され、いよいよ本年4月から基本計画及び第1次3か年実施計画を含む新総合

計画がスタートするわけでありまして。しかしながら、市長の交替時期との兼ね合いから、いまだ計画が示されていない状況であります。そこで、次の2点について伺います。

まず、第1点目は、各計画の策定についてはどのような方針で進めていくお考えなのか、伺うものであります。

第2点目として、当該計画を公表する時期はいつごろになるのか、伺いたいと思います。

次に、第3項目の財政問題について伺います。現在、我が国の経済情勢は、依然として先行きの見えない状況であるにもかかわらず、さらにこれに追い打ちをかけるように、このたびの大震災による我が国経済への悪影響が予想されるところであります。

このような極めて厳しい社会経済情勢の中で、国の財政はもとより、地方財政においても少なからず影響を受けるものと考えられます。そして、本市においては今後、どのような影響を受けるのか、また市民生活に大きな支障を来すことなく対応していけるのか、大きな懸念を抱かざるを得ないのであります。そこで、本市の財政状況はどのようになっているのか、次の3点について伺います。

第1点目は、平成22年度決算見込額及び各種財政指標についてであります。平成22年度決算見込額と各種財政指標はどのようになるのか、伺うものであります。

第2点目は、このような財政状況を見て、どのように受けとめ、どのように評価されているのか、伺うものであります。

第3点目は、平成23年度予算案についてであります。市長は、市長就任後、間がなく、当初予算編成については思惑どおりにいかなかったとは思いますが、次の4点について伺いたいと思います。

第1点目は、予算案作成に当たり、どのような編成方針で対応されたのか、伺います。

第2点目は、予算編成の段階で財源不足額はどの程度あったのか、伺います。

第3点目は、過去3年間の財源不足額と今後5年から6年間の財政計画における財源不足見込額はどの程度になるのか、伺うものであります。

最後に、第4点目として、これら財源不足をできるだけ回避するためには、(仮称)市民文化会館等の大型事業の見直しを初め、緊急度、優先度等を見分ける事業仕分けを行うお考えはないかどうか、伺うものであります。

以上で私の第1回目の質問を終わります。

○議長(板橋 甫君) 市長から答弁を求めます。山口市長。

[市長 山口和彦君登壇]

○市長(山口和彦君) ただいまの忍足議員の一般質問に対し、お答えします。

初めに、市長の政治姿勢について申し上げます。

1点目のマニフェストにおける7本の柱と17項目の政策について、実現化に向けての期間と数値目標についてお答えいたします。

現役世代、高齢者の方々が安全で安心して暮らせる町「元気な勝浦をつくろう、子どもたちのために」を目標に7つの柱と17項目を政策として上げさせていただきました。その達成に向けて、市民の皆さんととことん話し合っ、協働でと訴えさせていただきました。とにかく市民の皆さんとじっくり話し合える場を積極的に設け、それぞれ優先選択を行い、取り組んでいきたいと考えます。

すぐに実行できるもの、また、十分な期間、準備を要するものもございます。勝浦市総合計画と関連させながら、それぞれ早期実現に向け、取り組んでいく所存でございます。

実現に向けての期間と数値目標の作成については、それぞれの施策について、財政面や優先度などを十分検証を行い、検討してまいりたいと考えます。

2点目の市長、特別職の給与を20%をカットすることの実施時期につきましては、勝浦市特別職報酬等審議会へ諮問してご審議をいただき、答申を得るという手続が必要と考えますが、私は6月勝浦市議会定例会に提案し、実施させていただきたいと考えております。

次に、新勝浦市基本構想に基づく基本計画及び第1次3か年実施計画について、お答えします。

まず、各計画の策定についてはどのような方針で進めていくのかということですが、お示ししましたマニフェストの実現に向け、計画の策定を行ってまいりたいと考えております。

次に、公表の時期はいつになるのかということですが、遅くとも8月には市民の皆様方からご意見等をいただくパブリックコメントが実施できるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、財政問題に対しお答えします。

1点目の平成22年度一般会計における決算見込額及び各財政指標の推計値についてお答えいたします。平成22年度一般会計補正予算（第6号）までの予算額87億3,575万9,000円に、平成21年度からの繰越事業費を加え、平成23年度への繰り越しが見込まれる事業費を除いた平成22年度一般会計の決算見込額につきましては、歳入で約90億4,400万円、歳出で約87億1,900万円が決算見込額となります。また、形式収支から平成23年度に繰り越すべき財源を引いた実質収支見込額は約2億9,800万円であります。この平成22年度の決算見込額をもとにした経常収支比率の見込みは91.8%で、平成21年度決算の93.8%に比べ、2ポイント好転する見込みであります。また、財政調整基金に約3億2,000万円を積み立てつつ、実質単年度収支は、約2億3,000万円の黒字が見込まれます。

2点目の各財政指標について、どのように評価しているのかであります。経常収支比率が好転した理由は、依存財源である地方交付税及び臨時財政対策債の発行可能額の増額が主な要因であり、今後も経常経費の抑制に努めつつ、市税の確保についてなお一層努める必要があると考えます。

3点目の平成23年度予算案について申し上げます。予算案作成に当たっての予算編成方針ですが、平成22年11月に平成23年度当初予算の予算編成方針を示し、予算編成が実施されたものであります。

今回の予算編成に当たっては、市長選挙の日程と任期等の点から所期の期日までに通常の当初予算を編成することが困難であることから、政策的経費を極力抑え、義務的経費である人件費、公債費及び扶助費を中心に、物件費及び補助費等のうち経常的経費を計上するとともに、政策的な経費であっても、債務負担行為を設定しているものや、(仮称)市民文化会館建設事業のように、既に都市再生整備計画及びこれに伴う国庫補助採択を受け、平成22年度から実施している継続事業を計上いたしました。

また、新規事業であっても、県補助制度が平成23年度から創設される小児肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの予防接種事業や子宮頸がんワクチン接種事業の拡充のように、市民の健康

のため、早急に予算措置すべきもの、さらには小中学校施設耐震診断事業及び防災メール配信事業等のように、児童生徒の安全、防災上などの観点から、早急に予算措置すべきものは計上いたしました。

2点目の平成23年度予算案における財源不足額であります。骨格予算である当初予算案の編成後の留保財源につきましては、平成22年度からの純繰越金の見込額が約2億9,000万円程度で、このうち6,000万円は平成23年度当初予算に計上済みでありますので、留保財源としては約2億3,000万円が見込まれます。また、地方交付税で1億1,000万円程度、財政調整基金については、平成23年度当初予算に繰入金として計上してありませんので、約8億5,000万円が留保財源となります。したがって、平成23年度6月補正予算以降の留保財源としては、合計11億9,000万円が見込まれます。

一方、6月補正予算の歳出につきましては、政策的経費を中心に予算編成をいたしますが、この政策的経費については、既に各課よりの予算要求額の総額が約3億6,000万円ございます。この要求内容を精査するとともに、政策的に必要なものは補正してまいりたいと考えます。

次に、過去3年間の財源不足額であります。勝浦市総合計画後期基本計画の計画事業における平成20年度から平成22年度までの各年度の進捗率は、事業費ベースで平成20年度が99.7%、平成21年度が101.3%、平成22年度の見込みが142.8%であります。このように後期基本計画の平成20年度から平成22年度までの計画事業を進めながら、平成22年度末現在の財政調整基金残高が約8億5,000万円ありますので、過去3カ年間の財源不足額はございません。

次に、今後5年から6年間の財政計画についての財源不足であります。平成23年度からの勝浦市総合計画前期基本計画及び第1次実施計画の策定とあわせて財政計画を定めることとなりますが、計画事業の策定に当たっては、緊急度や事業効果等の精査を行い、健全財政を維持することを基本に計画を策定することとなりますので、財源不足は発生しないと考えます。

次に、(仮称)市民文化会館等の大型事業の見直しを初め、緊急度、優先度の高いもの等を見分ける事業仕分けを行う考えはないかとのことであります。主に政策的予算として編成する6月補正予算の編成に当たっては、市議会を初め、市民の幅広いご意見を踏まえ、その必要性があれば、検討したいと考えます。

以上で忍足議員に対する一般質問の答弁を終わります。

○議長(板橋 甫君) 午前9時50分まで休憩します。

午前9時34分 休憩

午前9時50分 開議

○議長(板橋 甫君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番(忍足邦昭君) それでは、2回目以降の質問をさせていただきます。まず、第1点目として、マニフェストに数値目標、期間を定めて策定するお考えがあるかという質問をしたところ、財源等を考慮して検討していくということでございます。市民からしますと、具体的に数字で示されたほうがわかりやすいのです。例えば、一番いいのは、市長の任期4年間なら4年間の間に、1年目には、この項目についてはこの程度の数字で上げてやっていくんだと。2年目には、例えば、具体的に何%までそれをやっていくんだと。3年目、4年目、そういう数値を示し

ていただくと、市民としてもわかりやすいし、また評価しやすいのです。市長が当初、マニフェストを掲げて、選挙中におっしゃられたことは、どういうふうにして実現されていくのか、本当にわかりやすい。そういう意味で申し上げているのです。これは簡単に具体的な数字で示すというのは難しいかもしれませんが、そもそもこのマニフェストをつくる時点で、そういったことは考慮しておくべきことだと思うのです。遅ればせながら、その辺の数値を示したマニフェストを検討してもらいたいと思うのですが、その辺についてのお考えはいかがでしょう。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほども話しましたが、実現に向けての期間と数値目標ということですが、今の勝浦市の財政等を考えながら、また、子供たち、高齢者の方たちが安全で安心して暮らせる勝浦ということを考えて、ぜひそういう中で優先順位をつけて検討してまいりたいと思います。まだ就任間際ですので、大変申しわけないのですが、前向きに検討させていただくということで、よろしいでしょうか。お願いします。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番（忍足邦昭君） 前向きなご答弁をいただきましたので、期待したいと思います。

次に、市長、特別職の給与カットについては、審議会の答申を得て6月議会で提案したいと、そういうお考えですので、ぜひその辺も実行していただきたいと思います。

次の各計画、基本計画、第1次3か年実施計画については、確かに市長が就任間もないわけで、これから一から作り直すといったら大変な時間と労力を要しますので、既に前市長のときに大半が、素案ができていたはずで、それと大きく変わるのであれば、それは時間を要しますが、基本計画等については、どなたがトップになられてもそんなに変わるものではないと思います。ただ、それに、山口市長がマニフェストで掲げた項目について、それを多少足していくと、そういうことは必要かと思えます。時間がかかると思えます。これについては、先ほどのご答弁ですと、8月ごろには公表というお考えらしいのですが、これもできる限り早く公表していただきたい。もう既に新年度事業、予算の執行も4月から始まるわけですから、できるだけその裏づけとなる、特に実施計画については早く公表して、市民の皆さんにも示していただきたいと思えます。これは要望しておきます。

この総合計画策定に当たりまして、前回の基本計画策定に際しては、各地域に行政が赴いて、地域の生の声を聞いて計画に生かしていった、そういうことをやられたのですが、今回は時間的な余裕がないと思われましても、どういう形で市民の声を聞かれるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほどもご答弁いたしました。市民の皆様からご意見等をいただくパブリックコメントということで、ぜひ積極的に集会所等を活用しながら、地区の代表の方のご協力をいただきながら、そういう場を極力設定していきたいと思えます。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番（忍足邦昭君） 次に、財政問題について伺います。先ほどのご答弁ですと、平成22年度決算見込額については実質収支で2億9,000万余出ることでありました。市民要望は限りないわけですが、まだまだこういう事業をやってほしい、ああいう事業をやってほしい、そういう要望は限りなくあるわけですが、その要望が満たされているとは思いません。市民要望がかなえら

れてないのが数多くあるのです。そういったものが満たされていない中で2億9,000万余の実質収支ということでございます。後の問題で財源不足額の関係で、先ほどご答弁いただきましたけれども、過去3年間で実施計画に対して執行率がほぼ100%を超えているので、不足財源額はないんだということですが、そもそも3か年実施計画の中には数字が入っていないんですね。ですから、実質的に数字を3か年実施計画に入れますと、当然、市民要望がすべて満たされていないというのがわかるはずなのです。そういう市民要望をほとんど入れてあつての実施計画の数字なら、その上で100%を超えているというのならわかりますけれど、そんなに財源に余裕がある本市ではありませんので、それは現実にはあり得ないです。

そこで、限らない市民要望を少しでも満たしていく、そういう考え方で計画をつくっていただければ、当然、財源不足というのは生じてくるはずなのです。それを今後5～6年間においても計画に基づいてやっていくのだから、その計画が財源をオーバーしないようにやっていくんだから、不足額は出ないんだと。そんなことはあり得ないのです。財源不足額が出ないということは、それだけ仕事をしないということなのです。市民要望に多くこたえないということです。通常であれば、財源見込みに対して要望額が相当の数字でオーバーするのです。例えば、具体的にいきますと、各市役所の予算編成の段階において、各課要望の総額に対して、財政当局で財源の見通しを立てます。それを1.5倍とか2倍とかの要望が各課から出るはずなのです。その差額が財源不足額と思うのです。それを歳入に合わせるように実施計画はつくるわけですが、その実施計画が満たされたからそれでいいんだということじゃなくて、できるだけ実施計画そのものに市民要望をできるだけ多く取り入れる。示して、その上で財源がこれだけしかありません、これだけ不足しますということもはっきり市民にも示してほしいのです。そうすれば、市民としても、そういう財政状況ならば、これは我慢しなければいけない。我慢すべきところはしなければいけない、そういうふうになると思うんですね。そういう意味で、私は申し上げています。財源不足額がないということは、仕事をしない、市民要望に十分にこたえないというふうになると思います。その辺の考え方を伺いたい。以上です。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。藤江財政課長。

○財政課長（藤江信義君） お答えいたします。確かに市民要望を踏まえた実施計画、あるいはそういう予算というものは、財政サイドのみならず、行政全般としてきちっと受けとめてやる必要はあると思っております。ただ、ここ15年ぐらいの財政規模から申し上げますと、先ほど市長の答弁ございましたように、平成22年度は約90億円強の決算規模になりました。

平成22年度には国体等があつて約2億円弱の特殊な要因がありますけれども、それにしても88億円程度。平成8年度から、手元にある資料の決算額から申し上げますと、歳出規模で一番多かったのが平成11年度の84億5,000万円、平成8年度から平成11年度までが80億円台でございました。その後、平成12年度から14年度までが大体70億円台の半ば前後、それが一転して平成15年度に至っては69億円、70億円を切る、あるいは平成16年から17年が多くて76億円、72～73億円というものが平成17年、18年と続いております。

この要因は、先ほど経常収支比率等がよくなったというのが地方交付税の話をしたしましたが、ちょうどこの平成16、17年から平成19年ぐらいまでが三位一体の改革と言われる改革、地方交付税が大幅に、20億円程度までに減らされました。その前が24億円から23億円程度、多くて25億円、そういう状態でもございましたので、残念ながら勝浦市の財政は地方交付税に頼っ

ておる部分が大きいわけでございます。そういう中で財政的に見ますと、住民要望はいろいろあるかもしれませんが、そういう枠の中で財政運営をしなければならない。

それが一転、平成21年ごろから交付税が若干ふえてまいりました。今年度、平成22年度におきましては、最終的には25億円程度まで復元をする見込みでございます。

限られたそういう中で、一方、市税のほうは、交付税を減らしますけれども、税源移譲しますという国のマクロ的なものはございましたけれども、実態は課税客体に乏しいわけでございますので、都市部の東京などと比べますと、制度があっても税収は増えないという基本的な構造がございますので、なかなか難しい。

したがって、そういう財政の今後の見込み等も踏まえまして、なるべく住民要望にこたえるような形で財政運営をしなければならない。

今考えておるのが、先ほど財政調整基金8億5,000万円と申し上げましたが、今年度だけで3億2,000万円強、積み立てをいたしました。それは、今後の総合計画の中でそういう住民要望等にきちっとこたえていく必要があるだろう、また、これから策定する計画の中で、住民要望の強いものについては優先的に、これは市長に判断をしていただかなければなりません、していく必要があるだろうということで、積み上げたものでございます。

ただ、心配なのは、今の国の財政状況でありまして、借金である程度財政を支えてくれてあるわけでございます。今後の国の財政状況によっては、再び三位一体のころのように厳しい財政運営が続くことも考えておかなければなりませんので、その辺も踏まえた上で5～6年の見込みを踏まえまして、企画課と総合計画の策定の中での財政計画をまとめていきたいと考えております。以上であります。

○議長(板橋 甫君) ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番(忍足邦昭君) 今、財政課長からご答弁ありましたがけれども、先ほどの繰り返しになりますけれども、財源不足額がないんだというふうなことを言われますと、市民の方々は、勝浦市は財政的にそんなに困ってないんだなど、そういうふうに勘違いされる。だから、今、答弁されたように、勝浦市の財政というのは国の支えによって成り立っているわけです。平成21年度決算、歳入全体に対する市税の割合が28%しかない。残りの財源については、国、県、そういった財源に基づいて市の財布が賄われているんですよ。それだけ厳しい。これはちょっと言い過ぎかもしれませんが、市全体が国からの保護を受けているということかもしれません。

そこで私が言いたいのは、市民に対して実情を、実際の内容を公表して、勝浦市はこういう状況なんだと。だから、市民の皆さんも我慢するところはしていただきたい。やれることはやりますけど、やれないことは我慢していただきたい、そういうふうにはっきり示すべきです。そうしないから、いつまでたっても市民に不満が充満しているわけです。最近はあきらめです。何を頼みに行っても、二言目には予算がない。道路のちょっとした舗装、何十万円単位も予算がないからできない。排水の整備をお願いしても、予算がないからしばらく待つてほしい、そういうことになるんですね。もっと実情を明らかに示して、理解してもらおう。それが市民とともに協働で行政を進めていくということになるろうかと思えます。市として情報の公開が足りないと思えますので、今後もその辺は努めていただきたい。これは財政問題だけじゃなくて、ほかの情報も同じでございます。

次に私が一番問題としているのは、財源不足額を回避するために大型事業を含めて優先度等

を見分ける事業仕分け、勝浦市版の事業仕分けをやる必要があるのではないかと思います。先ほどの市長のご答弁ですと、議会や市民との話し合いで、必要性があれば検討する、そういう消極的なご答弁でありました。これは今、一番大事なことだと思うんですよ。特に市民文化会館がこの一、二年で一番の大型事業です。総額で17億円から18億円かかると、そういう大型事業です。果たして、これを今、急いでやらなければいけないのか。まして、今回の東北の大地震で、再建について国を挙げて取り組まなければいけない問題です。当面は避難されている方々の支援を優先させますけれども、それが落ち着いたときには、今度はまちの復興、そういったものに総力を挙げて取り組んでいく必要があるわけです。一説によりますと、今回の大震災の復興には20兆円から30兆円の財源が必要だと。それも借金で賄う。あるいは、その目的を掲げたこのための増税も考えていかなければいけない、今、そういう事態なのです。そういうことを考えますと、なおさら、勝浦市にとってもこういう大型事業を急いでやらなければいけないのか。その辺は至急再検討しなければいけないと思うんです。その辺について、まずお考えを伺いたいと思います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほども答弁させていただきました事業仕分けも含めて、今、忍足議員がおっしゃったことは、本当に必要なことかと思えます。そういう中で、先ほどもお話ししましたが、市議会を初め市民の皆様と幅広い意見交換をする中で、その必要性、時期等について検討して考えていきたいと思えます。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番（忍足邦昭君） そういう市長のご答弁は、消極的なご答弁だと。当初で期待すると申し上げましたけれども、まさしく今、市長の決断力が求められるときなんですよ。急いでその辺を決断しなければ、仮にこの事業を先送りするとしたときには、当然、県、国を通して、補助金、起債、そういった申請等ありますから、もしとりやめるのであれば、そういったことも早目に手を打たなければいけない。時間の余裕はないはずですよ。そんな悠長に考えている時間はありません。

そこで、市民、議会と話し合っていくというのはわかりますけれども、そこは市長の信念といますか、考え方をはっきり出して、こういうふうにするのですけれども、どうですか、そういう主体性を持ってこの話を進めないと、何かうやむやに終わってしまうような気がするんですね。ここは市長の決断力、実行力が問われると思うんですが、もう一度伺います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今、お話がありましたように、必要性等を考えながら、前藤平市長といろいろな方たちが検討してきた中で、今のこういう状況の中で、再度その必要性等について早急にその場を設けて取り組むということで、考えていきたいと思えます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番（忍足邦昭君） ぜひ、そのようにして結論を出していただければと思います。大もとの問題がそこありますから、場所をどこにするとかしないとか、そういう問題は二の次になってきます。まず根本的に、事業そのものを進めるのか、延期するのか、これを決めていくのが先決だと思いますので、ぜひそのご検討をお願いしたいと思います。

最後に、これは事前の通告にはありませんでしたけれども、それはご容赦いただいて質問さ

させていただきますが、今回の東北から関東への大震災に際しまして、これは至急、国を挙げて被災者に対して支援しなければいけないんですね。その支援の取り組みが市として立ち上がりが遅いのではないかと思うのです。

今朝の新聞によりますと、市内ではある業界の方が中心になって、既に支援物資を集めて送ったとか、送る手はずを整えてあると、そういう情報がなされているんですね。これは市民の方々の善意というか、当然、協力を得なければいけないのですが、市がまず市民にそういう声をかけて、善意を集めて送る、支援すると、そういう方向が筋じゃないかと思うんですが、その辺についてはどのように考えておられるのか、伺いたいと思います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今、忍足議員から指摘のありましたことに対しましては、当初、私が初登庁した時点で各課の課長の前で今のお話をしまして、国等から通知等も参る中で、現に進めている段階でございます。ですから、今のところ、物資につきましては、ということがありましたので、今、義援金等を集める方法等で文書を発送することになっております。

○議長（板橋 甫君） 関福祉課長。

○福祉課長（関 修君） 義援金の関係でございますが、現在、各地区の市政協力員の方に市民に対する回覧文書を作成し、この金曜日、18日に発送するために準備しております。物資の関係につきましては、日赤共同募金会等が取り扱いませんので、その関係につきましては青年会議所のほうで取り扱うと承っております。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。忍足邦昭議員。

○5番（忍足邦昭君） わかりました。いずれにしても、こういったことは行政がまず先頭を切って音頭をとって進めていって、それに対して市民の方々に協力を願っていく。そういうことで、今後も進めていただきたいと思います。まだまだこの震災の復興については期間と経費がかかるはずであり、国挙げてこれはやっていかなければいけないと思いますので、何とぞ市としても先頭に立って取り組んでいただきたいということをお願いいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） これをもって忍足邦昭議員の一般質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 続きまして、八代一雄議員の登壇を許します。八代一雄議員。

[10番 八代一雄君登壇]

○10番（八代一雄君） まずは、私からもこのたびのマグニチュード9.0という東北地方太平洋沖大地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

それでは、改めて、新市長就任、おめでとうございます。一昨日の所信表明も踏まえまして、市政運営に対して新市長にお尋ねいたします。難しい質問はいたしませんので、率直にお答え願います。

最初に、新市長のまちづくりについてお伺いします。初めに、今の勝浦市を新市長はどのように見ておりますか。そして、市の行政についてはどのように感じていますか。また、就任早々に手がけたいことは何か、お示してください。

次に、新市長が掲げたキャッチフレーズとも言える「元気な勝浦をつくろう、子どもたちのために」というのは、具体的にどのようなことなのでしょう、お聞かせください。

2番目にマニフェストについてお尋ねします。

1点目、マニフェストは、市民との4年間の約束ととらえてよろしいのか、お聞きします。

2点目に、大規模な財源手当が必要なマニフェスト項目が多々あり、勝浦市総合計画、とりわけ前期基本計画及び実施計画の見直しが必要と思われませんが、この点についてはどのような考えをお持ちか、お聞かせください。

3点目に、今後、マニフェスト実現のために、最初に政策予算に反映させたい施策、事業は何か、お聞かせください。

最後に、前藤平市長からの引き継ぎ事業についてお聞きします。

1点目、先ほど問題にも上がりましたが、文化会館建設事業については既存の計画を尊重して進めていく考えでよろしいのか、お聞かせください。

2点目、各種のイベント事業についてどのように考えているのか。特に時節柄、11回目を迎えた、今年も多くの人でにぎわった、今や市の最大のイベントとなったビッグひな祭りに関しては、どのように感じているのか、お聞きします。

以上で1回目の質問を終了させていただきます。

○議長（板橋 甫君） 市長から答弁を求めます。山口市長。

[市長 山口和彦君登壇]

○市長（山口和彦君） ただいまの八代議員の一般質問に対し、お答えいたします。

初めに、新市長のまちづくりについて申し上げます。

最初の、今の勝浦市をどのように見ているかということですが、これは大変失礼な言い方かもしれませんが、活気がない、元気がないと感じます。その大きな原因として、やはり人口減少かと考えます。人口の減少は、市内産業の生産能力の低下を招き、市民所得や財政面での収入減につながり、市の活力そのものを低下させていくと考えますので、ぜひこの人口減少に歯どめをかけて、定住者の増加、活気のある勝浦をつくっていきたいと考えます。

そして、市の行政についてどのように感じているかにつきましては、勝浦市の行政については、国の構造改革、財政改革などのさまざまな制度改革の中で、厳しい財政状況にありながらも、市民生活に密着した行政が行われているものと考えます。今後もさらに元気な勝浦づくりに、市民の皆様と行政との協働の取り組みをさらに推進していきたいと考えます。

また、早々に手がけたい事業につきましては、マニフェストに掲げた市民生活に密着した事業から取り組みたいと考えております。

まず、市街地の駐車場不足の解消、保育所の再編、建てかえ等を検討し、送迎バスの導入、保育時間の延長、中学生までの医療費を無料にし、子育て支援を積極的に行っていきたいと考えます。また、高齢者のための代行サービスや市民バスの運行路線の見直しなどに取り組んでいきたいと考えます。

そのためにも、市の事務事業を見直し、無駄を減らしていく市長、特別職の給与を20%カットし、財源の一部に充当していく考えであります。

次に、「元気な勝浦をつくろう、子どもたちのために」ということは、具体的にどのようなことかということですが、とにかく福祉、子育て支援が充実して、観光はもちろんのこと、地域

産業、地域商店街が活性化し、安全で安心して生活できる勝浦、定住者の増加等、だれもが住んでいてよかったと思える、活気のある勝浦をつくっていきたいと考えます。

次に、マニフェストについて申し上げます。

1点目のマニフェストは市民の皆さんとの4年間の約束としてとらえていいのかとのことですが、掲げさせていただいた公約は、先ほども述べましたが、とにかく市民の皆さんとじっくり話し合える場を積極的に設け、それぞれ優先選択を行い、取り組んでいきたいと考えます。

すぐに実行できるもの、また、十分期間、準備を要するものもございます。市長就任直後のことで、策定中の総合計画等の内容把握は十分でない状況でありますので、今後の策定の中で見直しを行いながら、早期実現に向けて取り組んでいく所存であります。

2点目の勝浦市総合計画前期基本計画等の見直しということですが、先ほどもご説明いたしました、計画策定に当たりまして、とにかく市民の皆様方、委員の皆様方と十分協議し、優先選択を行い、見直しを図っていきたいと考えます。

3点目の、最初に政策予算に反映させたい施策、事業についてですが、これも十分財政を精査の上、市街地の駐車場整備、福祉、子育て支援等に積極的に取り組んでいきたいと考えます。

次に前藤平市長からの引き継ぎ事業についてですが、1点目の文化会館建設事業については、観光はもちろん、地元商店街、朝市の発展、水産業におけるカツオの漁獲量の最盛期の混雑も、市街地の駐車場不足を解消することによって、勝浦の経済に活気をもたらすことと考えます。

前藤平市長、議員の皆様初め建設検討委員会等で十分検討し、現在の場所への建設計画がされていると考えます。その検討過程を尊重すると同時に、私が昨年12月以降、市民の皆さんとの会話の中で建設位置に疑問を呈する声も無視せず、改めて建設位置について検討することも必要だと考えております。

また、11日の東北沖で発生しましたかつてない巨大地震、大津波の大災害を教訓として、漁業関係者、商店街の皆様、市民の皆様の意見を十分お聞きする中で、検討してまいりたいと考えます。

次に、各種イベント事業についてですが、カツオまつり、若潮まつり、いんべやあフェスタ、コスモスフェスタ、そしてビッグひな祭り、これらの多くのイベントは勝浦市の名前を広めています。特にビッグひな祭りは、勝浦市を全国的に有名にしてくれました。ぜひ、それぞれのイベントを継承していきたいと考えますが、観光協会、商工会及びボランティア等で活動していただいている方々を初め関係機関等と十分協議する中で、方法等について検討していきたいと考えています。

以上で八代議員に対する一般質問の答弁を終わります。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） 新市長、ご答弁、ありがとうございました。町なかの八代と申します。市長とお話する機会、最初です。その最初が一般質問という形で多少失礼な質問もいたすかもわかりませんが、ご容赦願いたいと思います。

市長のまちづくりについてご答弁いただきまして、現状の勝浦、私も正直、同じ感覚であります。市長は元気な勝浦づくりということを目指していくということで、ぜひそれは邁進して行ってほしいという中で、市長も昨日、所信表明の中で一番先にとらえていました産廃問題、一番最初に産廃問題を所信表明で訴えていくということは、市長自身も産廃問題はこの4年間

の中での最大のテーマだということを感じているんだなと思いました。

この産廃問題をクリア、要するに阻止しない限りは、勝浦のまちづくりは絶対にあり得ないと感じています。今、この産廃問題に対しては、今年の9月を一応のタイムリミットとして地元反対住民の皆様方は一生懸命に運動なさっています。そこで、まずお聞きしておきたいのですが、今年の9月のタイムリミット、ターニングポイントになるのですが、この9月は何か、市長はご存じですか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 9月というのは、県のほうで最終判断をする9月だと思います。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） その9月に取り下げの形になっていただければ、市にとって、また反対運動されている地元住民の皆さんにとっても最高な形になるんですけど、そのために昨日も市長は所信表明で言われていましたけど、知事のほうに陳情、話し合いに行くんだとおっしゃいました。

知事の判断の上に廃掃法、厄介な国の法律があるということはもちろんご承知だと思いますけど、そういう形になっていますので、知事の判断がすべてじゃない。知事の判断が最高地位にあるんじゃない、その上に廃掃法という法律があるんだということだけは念頭に入れておいてほしい。勝浦の浮沈がかかる産廃問題ですので、この4年間の最重要課題だと思っていますので、ぜひ市民の先頭になって活動していくことをお願いいたします。よろしいですか。それについてひとつ、市長からご答弁をお願いします。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今、ご指摘がありましたように、この産業廃棄物最終処分場を勝浦の鶴原につくるということは、本当にすばらしい風光明媚な観光のまち勝浦に対して非常に大きな影響を与えるものだと思います。これは地区の方々はもちろん、勝浦市民全体の問題として考えます。そういう中で、八代議員おっしゃったように、先頭に立って県、国等への働きかけを行います。そういう中で、昨日、市の担当部署の課長ともお話をしたわけですが、こういう問題点、こういうことはどうなんだということを整理して、それを業者のほうにといういろんな打ち合わせもやっています。そういう中で、課長にもお話ししました。必要があれば、どんどん県、国に出向く。とにかく全力で阻止に向けて動くという決心をしております。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） 産廃問題についてはその辺で、よろしくをお願いします。

産廃問題は置いておいて、市街地の駐車場整備、ご答弁の中で出てきましたけど、私も市街地の人間で、藤平前市長もずっと駐車場の整備は大きな課題だったわけですね。勝浦は駐車場とトイレが足りないということで、藤平市長、トイレのほうは何とか整備はできたんですけど、この駐車場問題に対してはなかなか名案がなかったわけですが、市長は何か秘策でもありますか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今お話にありましたように、市街地の駐車場整備、駐車場不足を解消するということは、勝浦市の活性化の第一の課題かと思っています。そういう中で、周りの様子を見まし

て、市有地、民有地、いろいろある中で、市民の皆様方とも十分話し合いをしながら検討して、確保に努めていきたいと考えます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） ちょっときついことで申しわけないんですけど、勝浦の地形を見てもらえばわかりますけど、まち中はバックネットのようにすぐ山を抱えちゃっているんですね。平地がまるっきり少ないのが勝浦の実情なんですね。そんな中で、市街地の駐車場の整備という一番願ったりのお題目なんですけど、これを実現させるには相当な知恵と検討が必要だと思うんですけど、明日、明後日に、一朝一夕でできるような仕事ではないと思うんですけど、これは何とか4年間で実現できる約束は取りつけられますか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今申し上げましたように、再度、市街地の市有地、民有地、先ほども人口減少ということで空き家等も多く見られます。そういう中で、早目にそういう方々と、また市有地等も含めて、1台でも多くとめられる駐車場確保に努めていきます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） ぜひ、よろしく願います。実際問題として、今度のひな祭りもたしか25万人という数字の一大イベントですけど、来る方がみんな駐車場難で、もう二度と来るもんかという声も正直、聞きます。本当に難しい問題だと思うんですけど、一日も早く実現できるように、ぜひお願いいたします。

もう一つ、私のほうからお願いしたいことがあります。今、前藤平市長が観光を目玉に力を入れていただきました。藤平前市長が就任当時、12年前になります。私も議員として初めて活動させてもらいました。当時、バブルがはじけた後で、ずうっと不景気の状況の中で藤平前市長は観光に力を入れて、市政運営を行ってきました。大げさに言えば内需拡大、外貨獲得、そういう形のスタイルが現状の景気と照らし合わせた場合には、勝浦でその道をとるしかないのではないかと、私も考えています。

今、若い人たちが商工会青年部のほうで勝浦タンタンメンでまちおこしをやっています。勝浦に来てくれる方は朝市と海中公園しかないんです。朝市の後に、この後、どこに行ったらいいのかという質問を受けるんですけど、私も正直、風光明媚な八幡岬公園、あの辺を案内するぐらいなものなんですけど、市長にその辺の認識があるのかどうか、お尋ねいたします。

私も議会で2度ほどお話しさせていただいたんですけど、彫刻のまちおこしをひとつ考えてほしいと。と申しますのは、いすみ市においても鴨川市においても、波の伊八で今、まちおこしを盛んにやっています。勝浦の場合には、波の伊八の師匠格に当たる島村の彫刻が点在しています。波の伊八に対しても勝浦の市内だけじゃなく、総野、上野、興津、点々とそれなりのものが眠っています。うまくその辺を活用できれば、勝浦市内全域をお客様に回っていただくことは、観光の目玉としておもしろい企画になるんじゃないかなと。そうなれば、いすみ、鴨川ともジョイントできますし、南房総、圏央道で言えば中房総と今言いますが、その辺の目玉の施策の一つとしてできると思うんですけど、この辺の彫刻に関してはどのように認識なされていますのか、ご興味はおありですか。まずはその辺についてお聞きします。

○議長（板橋 甫君） 午前11時まで休憩いたします。

午前10時45分 休憩

午前11時00分 開議

○議長（板橋 甫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほど八代議員から質問いただきました件につきまして、勝浦というのは自然、風光明媚と、あわせて彫刻等でお話がありましたけども、勝浦市内にはまだまだそういうすばらしい文化財が埋もれている面があるかと思えます。そういう中で、広報を通しまして、そういう勝浦市内にある文化財等を探し出しながら、また、地域の方々との会話の中でそういうものをお聞きしながら、豊かな自然プラスすばらしい伝統の残る勝浦、そういうものを紹介しながら観光の活性化に努めていきたいと思えます。ぜひ早目に、今言いました広報紙、また地域との会話の中でそういう文化財を発掘して紹介して、まずは勝浦の人たちがそういう面でも勝浦のよさを知ることから始めていきたいと思えます。ありがとうございました。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） まちづくりの観点から彫刻の話を出させていただいたのですが、先ほど申し上げましたけど、いすみも鴨川も彫刻でまちおこしを企画しています。その中で今、勝浦が出版してくれちゃって、エポックになっちゃってますけど、勝浦が彫刻で計画していただければ、いすみ、鴨川と一緒に、また勝浦がそういう部分では一番材料が眠ってますので、リーダー格をとれるような作品も多々ありますので、先ほど申し上げましたように、市内全域にございますので、資料は担当部署にも渡してありますので、ぜひ勉強して、実現の方向に当たってもらいたいと要望しておきます。

次に、マニフェストについてお尋ねさせていただきます。このマニフェストで一番引っかかりますのは、もちろん実現できればいいことなんですけど、JRの複線化の問題は、お父様がずっと力を入れてやってきたお仕事は十分わかっています。ただ、今の時世と当時のご時世と違うわけです。果たして、今のご時世にこれがそぐうのか。財政規模からいっても、当時、総事業費が100億円です。その中で県が3分の2、市と特別負担金といって企業の寄附、これを合わせて3分の1、これをJRのほうに貸し付けという形で始めた事業なんです。今のような経済状況の中、企業の負担金も当てにならない状況の中、この複線化を進めていくのか。マニフェストに入れたものの、これをもし実現するとなると、市としても、当時29.47%、3割近い負担を強いられてますので、考えなくちゃいけないわけで、総合計画、基本構想を根本的に見直さなくちゃいけない事業の一つだと感じるんですが、これを本当に手がけていくおつもりですか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 確かに八代議員がおっしゃったように、JRの複線化というのは非常に難しい面があると思えます。ですけども、これは藤平前市長もJRの複線化に向けて、市民旅行等、計画をしたり、それに向けての取り組みを行ってきています。確かに難しいことかもしれませんが、そういう中で先ほどおっしゃった観光の活性化等を図りながら、JRの利用客を増やしていく。また、今、商工会の青年部で、先ほども出ましたけども、勝浦タンタンメンの宣伝等でJRの利用等も進めてきています。そういう中で、少しずつ足元から利用客を増やせる活動を進めながら、将来のJRの複線化に向けての取り組みを、大きな目標かもしれない

ども、そういう中で少しずつ進めていけたらと思います。ですから、再度、藤平市長の事業を継承しまして、市民旅行をさらに活性化させる等の取り組みをしながら、取り組んでいきたいと考えます。以上です。

○議長（板橋 甫君） 八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） となると、同じJR関連で駅のエレベーターもマニフェストに取り上げています。私も2度ほど議会で取り上げさせていただいたんですけど、市の財政との関連で実現に至りませんでした。かえって大原駅のほうが先に着手したというような形になってきています。行政側も先々は必ずエレベーターをつけますよというお答えはいただいているんですが、高齢者、また身障者、そういう方々にとって、勝浦駅という勝浦の大看板の場所にエレベーターは絶対に必要だと。一日も早く実現させるべき施策の一つだと、イの一番にやってほしいぐらいな気持ちがあるんですが、差し当たって第1次実施計画の中で実現可能でしょうか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほどの質問に合わせて、そういうJRの複線化等に向けて利用客を増やす。そのためには高齢者の方々、身障者の方々もJRを使いやすい環境をつくるためには、ぜひエレベーターの設置が必要かと思います。私もぜひ早目に取り組みたいと思います。これは1次の実施計画の中に既に取り入れてありますので、そういう中でJRとも協議しながら、早急に実現できるように取り組んでいきたいと思います。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） ぜひ、よろしく願いいたします。最後に、藤平市長からの引き継ぎ事業の文化会館、お答えをお聞きしていただきまして、用地の見直しを検討するというお話ですけど、市民との話し合いの中でと申しますが、実際、市長は文化会館に関してはどういった考えをお持ちなんですか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今、市民文化会館の建設場所について質問がございましたけども、先ほどの答弁の中でもお話ししました選挙期間中に市民の皆様と会話をする中で、いろいろお聞きすることは、反対の声が非常に多い。また、東北沖の地震の災害等を見ましても、果たしてどうなんだろうかという考えの中に、ぜひ市民の皆様方の意見を再度確認しながら、そういう災害等も含めた中で場所等、変更するかどうか等を検討していきたいと考えます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。八代一雄議員。

○10番（八代一雄君） つけ加えてお話しさせていただきますけど、この問題、藤平前市長が就任時に市民懇談会を開きました。私も駆け出しの議員だったもので、45区、ほとんど一緒に回らせていただきました。そのときに一番要望が強かったのが、この文化会館の建設なんです。ただ、厳しい財政の中でなかなか建設に踏み切ることができずに、最後の総合計画の中で前市長が10回ぐらいの検討委員会を踏まえて、答申を受けて、提起した文化会館なわけですね。市民にとっては、要らないという人もいれば、場所はあるなとこじゃだめだ、あそこでいいんだ、一日も早く実現してほしい、市民の皆様方のいろんな考え方があると思うんです。でも、今回、こういう形で上げてきたのは、市民会館に対する補助金じゃないんです。社会資本整備補助金、まちづくり交付金から変わってきた補助金の中で、市民文化会館建設もその事業の中の一つの補助金でやっているわけです。その補助金もほかの事業で一部いただいて、活用してやっている

事業もあるわけです。それを根底からひっくり返すというのは、これは非常に危険性があるんじゃないか。いろんなお話を聞くのも結構ですけど、文化会館設立に当たって長い歴史があるので、その辺は尊重して、私個人から言わせてもらえれば、一刻も早くあそこにつくるべきだというのが私の持論なんですけど、その辺はいかがですか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほども今までの取り組みを尊重しながらということでお話をさせていただきました。そういう中で、私がいろいろ聞く中で、建設に反対という意見よりも、場所の問題が結構多くあるのかなと。そういう中で、そういうことも含めて、今までの経過等を十分考えながら、再度、市民の皆様方の意見を聞きながら、建てないんじゃないかと、場所の変更等もあり得るということで、意見を聞いて、最終的に判断できればと思っています。また、国等の補助金につきましても、場所の変更があれば、当然、工期等がおくれます。そういう中で、国等に積極的に働きかけて、ご意見等を伺いながら検討していきたいと考えます。以上です。

○議長（板橋 甫君） これをもって八代一雄議員の一般質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 続きまして、児安利之議員の登壇を許します。児安利之議員。

[14番 児安利之君登壇]

○14番（児安利之君） まず最初に、東日本大震災によって亡くなられた多くの方々に、心からお悔やみを申し上げます。と同時に、今なお避難生活を強いられている50万人にも及ぶ多くの方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

さて、私ごとになって恐縮ですが、この一般質問として登壇をする機会、恐らくこれが最後になると思っています。実は、10期40年間、1年4回の一般質問を1回も休まず、160回続けてまいりました。ついに今日が最後の質問になるわけであります。くしくも、山口市長とは最初にこの質問のやりとりで対面する機会を得たわけですけれども、残念ながら、これ1回で終わりという皮肉と言えば皮肉ですが、そういう機会になると思います。先ほども前段者から出ていたお父上とは28年間、丁々発止、やりとりを重ねてまいりました。私、一貫して市民の立場に立った、その立場から質問をしてまいりました。今日もそういう立場で、率直な質問を新山口市長にいたしますので、ぜひとも前向きな、そして率直なご答弁をいただきたいことを、まず最初に申し上げておきたいと思います。

4点にわたって質問を行いますが、1点目は市長の政治姿勢の問題、2点目は地域経済振興策について、3点目は水道問題、そして最後の4点目にごみ処理問題について伺っていきたいと思います。

去る2月13日行われた勝浦市長選挙で山口新市長が誕生しました。勝浦市にとっては、平成23年度は新基本構想、そして基本計画、これらに基づく向こう12年間のまちづくりの方向を決める新しい総合計画で歩み始めるという初年度であります。また、平成23年度の経済は、景気は持ち直して経済成長の好循環に向けた動きが進んでいると、国はこういうふうに見通しておりますが、我々市民にとっては、その実感は全くと言っていいほどありません。

このような中で、勝浦市のトップとして市民の立場に立った行政運営、あるいは財政運営を

どう行っていくのか。その責任は極めて重大だと思っているところであります。そこで市長に通告いたしました諸点について伺いたいと思います。先ほども言いましたように、率直に質問いたしますので、ご答弁をよろしくお願いいたします。

まず第1は、市長の政治姿勢についてであります。その一つは、今回の市長選において、市長は完全無所属の立場で立候補し、当選したと聞き及んでおりますが、今後の政治活動の中で、各政党との関係はどのようなスタンスでやっていこうとしているのか。完全無所属を貫いていくのかどうかを、まず第1点目として伺っておきたいと思っております。

2つ目は、勝浦市長選挙公報で産業廃棄物最終処分場建設断固反対を初めとする各般にわたる公約を掲げておられます。

そこで、その1つに、これらの選挙公約で実現していく上で、どのような決意と見通しを持って臨もうとしておられるのか、これについて伺っておきます。

2つに、公約の最初に掲げている勝浦の自然、産業を守る上で産業廃棄物最終処分場建設を断固反対しますと述べておりますが、具体的手だてはこれからだとしても、業者は着々と建設に向けて準備を進めているのでありますから、のんびりと構えているわけにはいきません。その点で、市長はどのようにこの問題に取り組んでいくのかを伺っておきたいと思っております。

3つは、選挙公報やマニフェストに述べられている地域産業の振興を図る上で、市街地の駐車場の整備を推進しますと、このように掲げてあるわけですが、市街地における駐車場用地として、具体的にはどこをイメージしているのかを伺っておきたいと思っております。

今、(仮称)市民文化会館建設のための旧館の取り壊し作業が進められております。よもや今の土地を更地にした上で、駐車場用地へ計画変更しようなどという考えなどないとは思いますが、万が一にもそのような考えであるとすれば、(仮称)勝浦市市民文化会館建設検討委員会の当時の委員長として、牧野副委員長とともに委員を代表して当時の藤平市長に報告書を提出した者として、絶対に認めることはできません。市長の明確な答弁を求めます。

そこで、一つの提案をいたしますが、勝浦警察署が市役所前に移転することに伴って、その跡地を当面、駐車場用地とし、また将来的には、建てかえ保育所や幼稚園用地として活用するため、何らかの方法で市が確保するよう前市長に提言した経緯があるのでありますが、そのことが新市長に引き継がれているかどうか。新市長に引き継がれてないとするならば、改めて私から提案するものでありますが、そのような考えはないかどうか伺いたいと思っております。

第2は、地域経済振興策であります。民主党政権は、新成長戦略と称して輸出企業のみを伸ばすことだけに力を注ぎ、その結果、中小企業や地場のものづくりなどが犠牲になっているのではないのでしょうか。今、内需を増やすことこそが大切であって、その一つとして全国に広がりつつある住宅リフォーム助成制度を勝浦市でもぜひ創設することを提案するものであります。この制度を平成22年4月から実施している隣のいすみ市の例を紹介したいと思います。

この制度は、市内に本店を有する施工業者によって、市民が20万円以上の住宅の修繕、増築、模様替え、または住宅の機能向上のために行う補修、改造、もしくは設備改善のための工事を行った場合、限度額20万円ですが、消費税を除くそれに要した費用の100分の10相当額を補助金として交付するというものであります。

昨年の4月から9月までの半年間の実績を見ると、助成金交付額が2,152万9,000円に対し、工事金額が2億8,543万1,000円で、その波及効果は約14倍に達したと言われております。しか

も、職種は、大工、塗装、屋根、サッシ、電気、給湯、トイレなど多岐にわたっております。

このように、住宅リフォーム助成制度はリフォーム工事を生み出し、長引く不況のもとで自宅を修理、改善したくとも我慢を重ねている市民の住宅改善要求にこたえ、同時に仕事不足にあえいで地域就労人口の8%から10%を占める大工や左官など、地域建設従業者の就労機会を創出するための有効な手段であると思っております。市長の実施に向けの考えを伺いたいと思います。

次に、水道問題であります。勝浦市の上水道料金は、NHKのテレビ放送で日本一高い、朝日新聞を初めとする新聞報道では、千葉県一高い水道料金だと紹介され、現在でもその状況は基本的には変わらないというのが現状であります。千葉県内の自治体や企業団を口径13ミリの給水量で10立方メートルにならして使用料の月額料金を比較してみますと、勝浦市が2,415円となっており、隣のいすみ市が1,858円、千葉県下で現時点で一番安いと言われていた八千代市が934円で、これとの比較では実に2.5倍以上の開きがあるわけであります。

勝浦市の水道料金がなぜこんなに高額な料金であるのでしょうか。県下の多くの自治体は、一般会計など他会計から水道会計に財源を繰り入れたり、県の市町村水道総合対策事業、いわゆる高料金対策助成事業を活用して、少しでも安く料金を抑え、市民負担を減らす努力をしておるわけであります。

一方、勝浦市は、企業会計の独立採算制の原則をかたくなに守り、事業経費は専ら水道料金の値上げにゆだねる、それによって経営するという立場を一貫して今までとっているところに、千葉県下で最も高い水道料金という結果となっているのであります。

県の市町村水道総合対策事業助成要綱の目的は、その第1条で、市町村が経営する水道事業に対し助成をすることにより、水道料金の格差を是正し、住民負担の軽減を図るとともに、その経営の健全化を促進することを目的とするというふうに要綱に明らかに書いてあるところであります。

そして、その第8条で、補助金の限度額は、当該市町村が当該年度の一般会計からの補助金額と同額とするとあります。つまり、例えば、勝浦市が一般会計から5,000万円を水道会計に繰り入れた場合に、それと同額の5,000万円を県が補助金として出す。わかりやすく言えば、そういうことであります。

ちなみに、平成23年度の県当初予算を見ると、この高料金対策補助金に27億7,900万円が計上されているわけであります。例えば5,000万円の支出が1億円の財政効果になって、1億円の仕事ができる、生み出していくことができる、こういうお金の使い方、先ほどから前々段者からも出ている厳しい財政状況の中では、そのように5,000万円が1億円の倍になって効果を発揮することができる、そういう使い方こそ、まさに行うべきだと思います。

同時に、市民負担を軽減させていく、このことを一貫して今まで強く求めてきたのであります。今まではかたくなにそのことを取り入れようとしなかったわけですが、新市長に対して前向きな答弁を期待するものであります。

最後に、ごみ処理問題について伺います。平成22年夷隅地域一般廃棄物ごみ処理基本計画が策定されました。これに基づいて夷隅郡市広域ごみ処理施設建設計画が出されておまして、それによれば、平成23年から27年の間に共同の施設を建設し、平成28年から夷隅郡市一本で供用開始するというスケジュールとなっているわけであります。

しかし、このごみ処理の広域化の計画は、今回の基本計画の策定以前に例のダイオキシン対策を契機に、当時1市5町で構成する旧広域市町村圏で一本化してごみ処理を行うという共通認識が形成されたわけでありまして、その結果、大多喜町と旧夷隅町、旧岬町で一つの処理場、旧大原町と御宿町で一つの処理場、そして勝浦市が単独の処理と、この3つのブロックに分けて処理するんだけれども、あくまでもそのスキームとしては、広域処理だという共通認識に立って今日に至っていると私は認識しています。

このようなことからすれば、各市町のごみ処理手数料がその町によって違うという不合理性が現在続いているわけでありまして、しかも、その中でも勝浦市だけがごみ収集袋の価格設定が処理手数料と指定袋そのものの料金と別建てに、ある意味、二重構造となっている上に、ごみ1リットル当たりの手数料を各町と比較検討してみますと、勝浦市が1リットル1.6円、大多喜町が1.4円、いすみ市が1.1円、御宿町は月額200円という手数料であります。勝浦市が一番高い額となっているわけでありまして。昨年、私たちが行いました勝浦市政に対するアンケートの結果を見ましても、ごみ処理手数料が高い、せめて世間並みの手数料にしてもらえないのかという声が上位から2番目、3番目と高い水準で声が上がってきているわけでありまして。

市長は、この声にこたえる考えがあるかどうか。当面する将来的な、統一的なごみ処理の時点を待つまでもなく、当面、とりあえずの手数料を下げる考えがないかどうか、このことを伺って1回目の質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 午後1時まで休憩いたします。

午前11時35分 休憩

午後 1時00分 開議

○議長（板橋 甫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

市長から答弁を求めます。山口市長。

〔市長 山口和彦君登壇〕

○市長（山口和彦君） ただいまの児安議員の一般質問に対し、お答えいたします。

初めに、市長の政治姿勢について申し上げます。

1点目の政党との関係はどのようなスタンスをとるのかとのご質問ですが、私はどの政党にも属さず、公約の実現に向けて取り組んでいく中で、いろいろな党の方々のご意見、ご協力をいただきながら、あくまでも市民党的立場を貫き、市政に取り組んでいく所存でございます。

2点目の選挙公約についてですが、最初に、選挙公約の実現に向けて、どのような決意と見通しを持って臨むのかとのご質問ですが、とにかく市民の皆様方とひざを突き合わせて、とことん話し合う場を積極的に設けて取り組んでいきます。また、当然、勝浦市だけでは実現できないものが多いと考えます。ぜひ、近隣の市町と連携を密にしながら、県、国との連携を密にして、積極的に働きかけ、実現に向けて努力していく考えであります。

次に、産業廃棄物最終処分場建設に向けての反対運動についてですが、所信表明の中でも述べさせていただきましたが、とにかく勝浦は風光明媚な観光のまち勝浦です。その勝浦の貴重な財産を守るために、地域住民の皆様方とともに、勝浦市全体で反対運動に積極的に取り組んでいきます。市の関係部署の充実を図り、積極的に千葉県に働きかけ、取り組んでいく所存であります。

次に、市街地の駐車場の整備推進についてお答えいたします。駐車場の確保は、勝浦に来る観光客はむろん、地元商店街や朝市の発展、さらにはカツオ水揚げ最盛期での大型トラック待機所が勝浦漁港域内への冷蔵庫建設により不足する中で、駐車スペースの確保は勝浦の経済活性化には欠くことのできないものと考えます。駐車場用地としましては、基本的には市有地や民有地等の活用で確保したいと考えておりますが、相当なスペースを要することと考えます。

先ほどの八代議員の質問でもお答えしましたが、前藤平市長、議員の皆様が十分検討し、ご判断され、現在の場所への建設計画がされていると考えます。その検討過程を尊重しつつ、選挙期間中の市民の皆さんとの会話の中での市民の皆さんの声を無視せず、改めて建設位置について市民の皆様方のご意見をお伺いしたいと考えます。

また、11日、東北・関東で発生しましたかつてない巨大大地震、大津波の大災害を教訓として、漁業関係者、商店街の皆様、市民の皆様方の意見を十分お聞きする中で考えていきたいと考えます。

また、勝浦警察署の移転に伴う跡地を市で確保すべきとのことですが、勝浦警察署の移転建設工事は、平成23年度及び24年度の2カ年継続事業で実施し、移転後に現在の勝浦警察署用地は、県警本部から普通財産への変更手続を経て、県総務部管財課に移管されることとなります。

本市は、中心市街地において公共用地が乏しいことから、現在の窓口である県警本部及び勝浦警察署に対し、貸借も含めて跡地を利用したい旨、要請済みとのことでもありますので、引き続きこの取得等について努めてまいりたいと考えております。

次に、地域経済振興策問題であります。住宅リフォーム助成制度は、議員のご提案のとおり、いすみ市が平成22年度から実施しており、住宅等のリフォームを市内事業者が施工した場合に、20万円以上の事業費につきまして、事業費の10%を限度額20万円として助成するものがあります。また、現状では千葉県内ではいすみ市だけが実施しているところでもあります。今後は、財政状況及び他市町村の動向等を踏まえ、検討をしてみたいと考えます。

次に、千葉県市町村水道総合対策事業の活用による水道料金の引き下げについてのご質問でございますが、勝浦市の水道事業は昭和10年に創設され、翌年の11月より給水を開始し、その後6回の拡張工事が行われ、現在に至っておりますが、平成13年ころより老朽石綿セメント管の破損事故が多く発生し、安定給水が危ぶまれてきたことから、平成18年度より平均15.4%の料金改定を行い、老朽石綿セメント管の更新に努めてまいりました。この改定により、一般家庭用13ミリ量水器を使用し、20立方メートルを消費した場合の水道料金は県内で一番高いものとなっております。

他会計からの補助等につきましては、法定内繰り出しによるものと、独自に補助を行う法定外繰り出しがありますが、国が認める法定内繰り出しについては資本費が及ばず認められませんが、県が独自に行っている市町村水道総合対策補助制度には該当いたします。

また、この制度は、高料金に悩む水道事業者に対し、一般会計からの繰り入れがあった場合、県も市町村の繰入金額と同程度の補助を行うというものでございます。

しかし、現在の一般会計の財政状況はもとより、次期総合計画の事業実施による財源等を考えると、水道事業への補助は厳しいものと思えます。

このような現状から、公営企業の基本原則である独立採算の考えをもとに今後も事業を進め

てまいりたいと考えます。

次に、ごみ処理問題について、平成28年度供用開始に向け、広域ごみ処理施設建設計画を進める中、各市町のごみ処理手数料がまちまちであるのは不合理であり、勝浦市が近隣市町の中で一番高い状況にあることから、ごみ処理手数料を引き下げの考えはないかのご質問ですが、ごみ手数料の有料化につきましては、経済活動の進展、生活様式の変化等により、廃棄物の発生量が増大する中で、県内市町村の有料化や厳しい財政運営の中で歳出の削減等を図り、循環型社会の構築を目指し、安全で快適な生活環境に努めていくことが必要という観点から、平成20年7月よりごみ処理費用の一部を市民の皆さんに直接負担していただくことにより、ごみ問題の意識をさらに高め、ごみ減量化やリサイクルの促進を図ることを目的に、可燃ごみ有料化を導入いたしました。

ごみ処理手数料を設定するに当たり、ごみの減量化や負担感及び周辺自治体等との均衡等を考慮し、袋の容量1リットル当たり1円と設定し、他市町とは流通形態が違うことから、この手数料に袋代が上乗せされ、販売されております。

ごみ処理手数料については、現在、夷隅郡市広域市町村圏事務組合で進めていますごみ処理施設建設計画の中で平成23年度以降、ごみ処理手数料統一に向け、現在、協議を進めております。

以上で児安議員に対する一般質問の答弁を終わります。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。児安利之議員。

○14番（児安利之君） 答弁順序とは全く逆に再質問をさせていただきます。と申しますのは、最初の質問いたしました市長の政治姿勢についてが、私にとっては最重要の問題と認識しておりますので、最後に回させていただきます。

最初にごみ問題であります。一つは、勝浦市が有料化をしたときに、何で袋代と収集運搬手数料を別建てにするんだ、矛盾があるじゃないかということとをさんざんやりました。その記憶があります。案の定、今となってみると、大多喜町やいすみ市は袋込みの値段で袋を売っているんです。いすみ市は45リットルかもしれないですが、とにかく袋が幾らだ、収集代が幾らだと分けていない。だから、買うほうも、このごみ袋1枚で幾らですねと買って行くわけです。勝浦市の場合は、ごみ袋を買ってみると、40リットルで見ると、袋に40円が収集手数料とワッペンが張ってあるわけです。あと25円は、袋の原価とそれを販売している各商店の手数料が入って25円上乗せだと。だから、65円になっているんですね。これじゃ、役所はいいかもしれないけど、利用するほうは、何かひどいな、おかしいなという話なんです。しかも、商店によって袋のビニールというか質が違うから、高いところもあれば、安いところもある。安いのをたまにまうっかりして買っちゃうと、ごみを詰めるとびりっときちゃうというような、言ってみれば、粗悪な袋もある。委託したからといって、市がそういうばらばらなやり方をしているのか。ごみ行政は地方自治体の固有の仕事ですから、そういう2階建ての二重構造はやめるべきだと思うんです。

それが一つと、さっき言ったように、1リットル当たりで見ると、たった0.3円の違いじゃないかと言うかもしれないけれども、1リットルで勝浦市の場合は1円40銭です。いすみ市の場合は1円10銭です。大多喜町の場合は1円20銭ということなんだけれども、細かいことを言うなと言うかもしれませんが、率から言えば全然細かくないんです。そういうことを平成23年

度、統一的に努力していますよと言うけれども、果たして平成23年度までに共通的な、夷隅郡市一本のごみ焼却場ができ上がるか、それはわからないけれども、でき上がったとしても、統一的な料金に果たしてなるかどうかというのはわかりません。そういう点では、今、再検討して、袋代と収集手数料の二重構造じゃなくて、一本化して、買うほうは袋代も収集手数料もないんですよ。買うほうの感覚、使うほうの感覚は、ごみ袋なんですよ。ぜひそうしてもらいたい。その点のご答弁いただきたいのが一つ。

もう一つは、分別収集を始めて、確かに一時ごみは減りました。ところが、今や毎年毎年ごみは漸増しています。収集手数料を有料にする最大の理由を当時の担当は、あるいは市長は、有料にすれば、ごみが減量化すると言った。確かに1年ぐらいいは、あるいは1年半ぐらいいは減量化した。今や増えています。だから、有料にしたことは、ごみ減量化の理由には絶対ならないというのが実証されているんだけど、それはそれとして、あの当時、清掃事務所、クリーンセンターも、それこそ今の市長の答弁ではないが、ひざ突き合わせて、全市の皆さんのところへ清掃センターが中心になって、夜でも昼でも出かけて行って、分別収集というのはこういうものですよ、分けて出してくれば有料ごみが減りますよというのをやってくれた。でも、今でもまだ小さい名刺大の紙でも、その紙は別に端紙として別の袋に入れて、そのまま何でもいいからお菓子の紙袋に入れて出せば、無料で持って行ってくれるんだから、本当に有料の袋に入れるごみは町場の人で埋める庭もないという人が、生ごみをそこにに入れて出す、それだけが有料なんだからと言うと、そんなことはない。こんな小さい紙なんか持って行ってくれないと。いまだにそういう認識の人がいるんですよ。農村部へ行けば、生ごみは畑に埋めるとほとんどごみが出ない。出ないということは地球にやさしいということと同時に、役所のごみ処理の経費が安上がりになっていくわけですから、そういう啓蒙を今の段階でも、もっとひざ突き合わせ、再度やるべきだと。老人クラブの団体、婦人会の団体、その他の各種団体にも出向いて行って、ごみ収集というのは8分別やっているんだと。それを徹底してやれば、もっともっと有料ごみは減りますよ、ほとんど有料じゃなくなりますよというのを徹底してやってくれば、出すほうもお金がずっと安くなっていくし、処理するほうも助かるということで両得ですから、市長は行政について徹底してひざ突き合わせて懇談して行って、納得の中で市政を進めたいというのが大きな政治姿勢の柱になっているわけですから、その点、ぜひごみ行政の中でもやっていてもらいたいと思うんだが、その点についてお考えはどうか、お聞かせ願いたい。一問一答ですから、そこだけ聞きます。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今のご指摘を十分踏まえまして、これから検討しながら、ごみ処理問題に対して取り組んでいきたいと考えます。今、ご指摘いただきました他市町との情報交換等を積極的に行いながら、市のごみ処理について対応していきたいと考えます。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。児安利之議員。

○14番（児安利之君） ごみ問題については、そこでとどめます。市長の答弁に期待します。

次に水道事業です。これも、ある課題については前市長を踏襲しないけれども、水道問題では断固として踏襲するような答弁みたいですけども、まず第一に聞きたいのは、県下各地でこの県の高料金対策事業を活用している自治体、あるいは企業団は県下で幾つありますか。それと同時に、近隣といっても郡市の中でいいですけど、いすみ市や御宿町や大多喜町、この辺は

この活用方はどういう現状にあるか、それを一つお聞きしたい。

2点目は、財政的に厳しいので、法定外はとてもしゃないけども入れる考えはないという話ですが、水というのは人間が生きていく上で基本的なものですよね。それで、この水が千葉県下で高いか安い、あるいは全国で高いか安い、そんなことを幾ら繰り返していてもしょうがないので、安価で安全な水を市民に供給しなければならないというのが、水道法の第1条に明記されているんですね。安全は安全をとっているかもしれないけども、安いか高いかというのは、はっきり言って、高いということなんです。

せんだって配られたものは、500万円かけてつくったんでしたっけ。勝浦市水道ビジョン概要書が議員にも配られました。この中で、コンサルがいろいろ勝浦市の水道事業を将来にわたって分析した結果であります。この中に、分析の結果がどう出ているかということなんですけれども、一つは、今の料金体系で、将来5年ぐらいはもつだろう。この先、5年以降については、今のままの経営形態で行くならば、必ず水道料金は値上げしなければやっていけないというのがあるんです。それが一つ。

もう一つは、6ページに利用者サービスの状況となっている。窓口サービスは、水道課業務係で対応している。給水サービスについては、適正料金の検討、給水圧、水質の維持管理の強化、安定給水の維持に努める必要がある。そういう中で、水道事業経営の状況の中で、生産性については有収率が平均より低く、料金は平均よりかなり高い水準にある。こういってみずから分析しているんです。この何百万円もお金をかけた分析の結果、こういう分析の状況が、これはコンサルに言われなくても県下一高いのはわかっているんですけど、かなり高い水準にあるという結果も出させながら、将来、5年もたったらまた値上げしますよということを平気で言うんですか。新市長は、市民の立場に立って、何とか活性化を図りたいと言っているわけです。水は、消費者も使う、水産業者も使う、あるいは農業者も使う。特に鮮魚を扱っている水産業者、その他外来船も水くんでいくわけですから、この水道料金が高くなれば、コストが上がってくる。この間、浜勝浦のあるひらき屋さんに行って聞いたら、おれのうちは一月3万円払っている。それは営業だから払うでしょうと言ってしまえば、それまで。だけど、零細な業者にコストとして、この高い水道料金がかかっていったら、活性化どころの話じゃないということが言えるんじゃないでしょうか。

だから、一挙に下げよとは言いませんが、さっき登壇して申しましたように、例えば8億5,000万円貯金があると、さっき財政課長が言っていたじゃないですか。それを全部使えなんてばかなことは言いません。例えば、そこから数千万円でも使えば、同額のお金を補助すると。この間、共産党の県議団と関係する市会議員団と水政課との交渉をやりました。だって、勝浦は要望出してきていませんよと、こう言われちゃったんです。向こうは受け入れる体制十分持っているんです。だから、3,000万円でも5,000万円でも水道事業に繰り入れれば、同額を出します。しかも、今年度の県の当初予算では27億7,900万円計上しているんだから。これは実績を積み上げた計上かもしれないですけど、出す用意があるんですから。なぜそうかということ、県水とか八千代市とか、あっちの水道料金よりも2.5倍も3倍も4倍も高いから、同じ県民でありながら余りにも格差があり過ぎるからといって、県独自の施策として、これも宣伝になりますけど、共産党の県議団と私どもが九十九里水道企業団の合併のときに県に行って交渉してつくってもらったこの制度ですけど、これを活用してやれば、幾らかでも下がるんじゃないか。これは道

理じゃないでしょうか。98%の普及率があるんですから、言ってみれば、勝浦市民のほとんどが受益しているわけですから、一部の人に恩恵を与えろと言っているんじゃないんです。水道はあまねくオール勝浦の大多数の市民が水道を飲んでいるんですから、そこへ補助金を出したって、偏った人に優遇しているなんていう話じゃないということです。

後で課長から近隣とか県下の活用方、出してもらうけど、多分、私の記憶では、隣のいすみ市は前年度3億円余り法定外を一般会計に入れていますが。予算の規模が違うと言えば、それまでだけど、そういうことです。以上です。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。藤平水道課長。

○水道課長（藤平光雄君） お答えいたします。まず、県の高料金補助の適用を受けている事業者でございますけれども、県内で18事業者ございます。私の持っている資料でございますけれども、これは平成22年4月1日ですので、平成21年度決算のときの県の補助総額が約27億1,100万円ということで、それを先ほど申し上げました18水道事業者が補助を受けているというのが実情でございます。

次に、では、郡内の状況はどうかということでございますけれども、郡内2市2町ございますけれども、勝浦以外はすべて補助を受けている状況でございます。

先ほど議員おっしゃられましたように、中でもいすみ市が一番多い補助を受けております。平成21年度決算ですと約3億7,400万円が補助ということできております。大多喜町につきましては7,200万円、御宿町が1,700万円というのが郡内の状況でございます。以上です。

○議長（板橋 甫君） 次に、山口市長。

○市長（山口和彦君） 今、児安議員からご指摘ありましたが、今後、水道課、また財政課とも十分協議しながら、これからの財政等につきまして水道料金の検討をさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。児安利之議員。

○14番（児安利之君） わかりました。検討していただくということなので、その答弁に期待したいと思っておりますが、ただ、いすみ市で平成22年度で3億7,400万円の補助額で、一般会計からほぼ同額のお金が入っているということですね。大多喜町については7,200万円が補助額ですから、大多喜町でさえと言ったら大多喜町に失礼だが、7,200万円前後の一般会計からの繰り入れがされていると、こういうことですね。御宿町みたいな小さいところでも1,200万円ですから、それと同額の一般会計からの繰り入れがされている。みんなそうやって、少しでも市民に負担をかけずに、安全でおいしい水を飲ませようじゃないかという立場に立っていると思うんです。そういうことも市長は十分頭に置いていただいて、ぜひとも検討方をお願いしたい。この項については、これでとどめます。

次に、地域経済の活性化の問題ですが、今、確かに県下ではいすみ市だけしかやってないんですけども、仮に5,000万円水道にぶち込めば、あと5,000万円県からお金が来て、2倍の1億円の仕事ができる。仕事ができるというのは、つまり、それだけ市民の負担を軽減することができる、有効にお金が使えろと言ったのと同じなんですけど、これについては14倍の効果が上がっていると言っているんですよ。

いすみ市の住宅リフォームの関係を見てみますと、主な工事が多岐にわたっているのですが、外壁塗装だとか、屋根ふきかえだとか、室内の床、壁の改修とか、浴室の改修とか、雨戸、サ

ッシの入れかえとか、あるいは便器の交換とか、台所の改修とか、外壁張りかえとか、市内に本店を置く業者に限定するわけですから、勝浦市内でお金が循環していくわけです。実績を見ると、去年の4月に助成件数が18件あって、助成金が10%助成で245万1,000円。ところが工事は3,023万円なのです。そうすると、助成したお金が200万円ちょっとだけでも、3,000万円の仕事がそこに生まれて、さっき登壇して言ったように、市内の職人や左官や大工、あるいはその他の建具屋、その他の業種が今、仕事がなくてあえいでいる中で、修繕の仕事でもいいからやらせろよという今の厳しい状況の中で、そういう仕事がふえていくと同時に、今まで年金をぐっと抱きかかえて、あそこの雨漏り直したいなと思って我慢していたけども、20万円の補助が限度額で出るんだったら、この際やってみようかというので、どんどん仕事が増えまして、途中省きますが、去年の4月から始まって9月の6カ月間で、補正を組んで245万円から393万円助成金を出したのです。そうすると、仕事がどれだけになったかという、3,000万円から6,100万円の発注が市内で出たわけです。

むやみに出していたら、追加追加で市の財政パンクしちゃうと言うかもしれないけど、確かに限度はありますけれども、さっき検討するという答弁がありましたから、その辺に期待しますが、こういう制度をつくって、市内の住民が出すお金が市内の業者に渡って、市内の業者がそれを消費して、市内に循環して、いずれは市内である程度の活性化が起こるということになっていくのではないかな。今、全国的にはこれはいいというのでどんどん広がりが出てきているんです。残念ながら、千葉県ではまだ隣の市しかやっていませんが、恐らくこれから増えていくと思いますので、その点について、しつこいようですけど、再度、これはあえて市長と言いませんけれども、ほかの担当課長でも結構です。お答えをいただきたい。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。藤平都市建設課長。

○都市建設課長（藤平喜之君） お答えいたします。先般、2月末に千葉県の担当部署、整備部住宅課に問い合わせましたところ、住宅課におきまして調査をいたしておりました。平成23年度にリフォーム助成の事業を予定しております市町村が、いすみ市を含めまして9市町村ということでございます。これが2月末のことでございます。各市町村の制度の内容につきましては、現段階では検討段階ということで明らかにされてはおりません。それらも踏まえまして検討してまいりたいと考えます。以上でございます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。児安利之議員。

○14番（児安利之君） それでは、市長の政治姿勢について、最後に伺っていきます。

まず最初に、市長がマニフェストで掲げた第1の産業廃棄物問題ですが、先ほどから前段者からも質問がありましたので、私は違った角度から1点だけ。藤平前市長に、役所で今、環境防災課を中心にして、この問題に担当課として取り組んでいるが、これはあくまでも行政としての立場での仕事ですから、行政は国の法律、県条例や市条例、こういうものを踏まえて動くわけですから、どうしても限界があるだろうと。そういう点では、先ほど市長から答弁があったように、専門的なチームといいますか、専門部署を新たに、この行革の時代に新たに課をつくれとか、人間をいっぱい配置するというのは無理にしても、市長がそれだけ断固とした反対の立場に立っているんですから、阻止していくためにどうしたらいいのかという研究だけではなくて、具体的に動いて、そういうものを果たしていくという、そういう一つの班なりチームなりをつくって、反対運動を展開していく。場合によっては、長期にわたる運動といいますか、

ある意味、闘いといえますか、万一、法定に持ち込まれる闘いになるかもしれない。そういう場合に、専門家との打ち合わせとか、そういう場合、どうしたらいいのかとかいう対策を、そのチームが専任で立てていく。今の環境防災課の体制では、クリーンセンターはある、し尿処理場はある、消防団はある、防災関係はある、これでは気持ちはやりたくても、片手間にならざるを得ないと、外から見ていて思うわけです。私は環境防災課の回し者でも何でもありませんけれども、外から見て、冷静に見て、率直に感じるんですけれども、その1点について、市長はそういうことを立ち上げる考えはないかどうか、その点についてお伺いしたい。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 先ほどもご質問いただいたときにお答えしましたけれども、今現在、勝浦市では専門家の方をお願いして対応策等に取り組んでおります。確かに環境防災課、忙しい中で取り組んでくれておりますけれども、そういう中で今後の動きとしまして、態勢を整えるという意味で、再度、その部署等を検討しまして、極力、専門家の方たちのご指導をいただきながら取り組んでいきたいと思っております。ぜひ、参考にさせていただきたいと思っております。よろしくお祈りします。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。児安利之議員。

○14番（児安利之君） では、最後になりますが、市長のマニフェスト及び選挙公報の地域産業の振興の中の市街地の駐車場整備を推進します、この点についてお伺いをいたします。

私はあえて（仮称）市民会館を多目的ホールと言いますが、この（仮称）市民文化会館を前々段者から、それすらも凍結しろという意見がありました。私はそれとは全く相入れない意見を持っていますが、その後の質疑の中で、市長は、建てることはやぶさかでない。しかし、場所について検討していきたいんだと、こういうお話がありました。それについても市長の答弁に同意するわけにはいかない。

理由を今から申し上げますが、まず最初に、市長はせんだっての議会の初日、平成23年度予算編成の説明のときに、そしてまた所信の一端を述べるというふうに言われたときに、どういうふうな平成23年度の予算を提案されたか。私は耳をそばだてて聞いておりました。

この中で、予算に関する説明書の中で、どういうふうに言っているかということ、いろいろ国の経済情勢や県の状況、そして自治体の状況、勝浦市の財政状況を述べた後で、この骨格予算については、政策予算は6月定例会でやりますと答弁ありました。そのとおりで、骨格予算で当初予算はやむを得ないということは、十分承知しています。

この骨格予算については、その性格から、計上する経費を義務的性質を有する経常経費、年度当初の早期に契約を必要とする事業費及び国の補助事業による継続的に実施している（仮称）市民文化会館建設事業、並びに市民生活に直接的で早急に取り組むべき必要のある事業等を追加して編成することといたしました、こう予算編成の説明書で述べている。あえて、本来、骨格予算というのは義務的経費の性格のものなんだと。だけど、継続的にやっている（仮称）市民文化会館と固有名詞まで上げて、今度の予算編成を組んだのだと、市長みずから言っているんです。さっき言ったけれども、予算を組んだのは、建てるから組んだのだよと言うかもしれないけれども、この予算はどこに建てるかわからないけれども、とにかく建てるから組んだのだよという意味なんですかと聞きたいんです。当初予算ですから、実施計画や長期計画じゃないんです。どこに建てるかわからないけれども、建てるということじゃなくて、当初予算と

というのは4月から始まる予算で執行していくんです。その場合に、どこに建てるか。つまり箇所づけ、そしてどういう規模で建てるか、このことが前提になくて、何で予算が組めますか。財政課長に聞きたい。そういう予算を組んだの。それだったら、財政課長はど素人だから、すぐにやめてもらいたい。

こういうふうに予算計上してあって、しかも箇所づけがなっていて、しかも、市長はみずから、だから、皆さん、この予算を審議してください。できることなら、採択して、賛成して、早く4月1日から予算を執行させてくださいという提案でしょう。そのみずからの提案を、今から考えて、場所を検討して、もしかしたら場所を移すかもしれないと、これだったら理屈に合うのかな、おかしくなっちゃうなと思うんです。市民の声を十分聞いてというのはわかります。それは否定しない。

答申書というのがあるんです。(仮称)勝浦市市民文化会館建設等審議会、私はその器じゃないけれども、たまたま審議会の会長と建設検討委員会の会長を仰せつかりました。勝浦市市民文化会館建設等審議会というのが先にできたのです。これの審議会の答申の中で、建設位置についても十分論議しているんです。この審議会は5回も6回も持っているんです。建設の位置については、総合運動公園予定地、JR駅北口、現行の位置といろいろな視点から検討したが、総合運動公園予定地は侵入道路の改良や敷地造成、それに伴う附帯費用が莫大にかかり、造成に長期間かかること、JR駅北口の市有地は、電車の軌道に沿って走る市道墨名苗代台線の幅員が4メートル未満の箇所もあり、また、大山トンネル側、元日本国有鉄道の機関区のあった付近の道路はクランク状となり、道路を改良しなければ大型バスの進入に障害があること、また、平成20年4月1日から無料となる有料道路側からの進入についても、取付道路、敷地造成工事、排水問題、工事期間、費用等いろいろな問題があり、これらを解決してからの建設となると、期間的に時間がかかり過ぎること。いずれも、新しい土地となると敷地に道路をつくり、建物を建設すれば、その敷地、近辺の新たな開発に拍車がかかることは明白であり、これからの勝浦市の発展にもつながることとなると思うが、現在の市の財政状況や今の市民会館の耐震診断の結果、今にもぶつつぶれちゃうと、危険だということから、早期に建てるという大前提があったんですよ。

現時点では、現場が最適だと、これが市長への最初の答申です。その後、建設検討委員会というのが持たれてきて、何でか私がまた会長をやったんですけど、これで6回重ねて、こういう報告書をつくりました。検討委員会の委員のメンバーを見れば、市内の校長会の会長だとか、観光協会の会長ですとか、婦人会の会長ですとか、その他、各種団体の芸術文化団体協議会の会長ですとか、あらゆる各界各階層の代表の方も含めた検討委員会でやっと出した結論なんです。それを何年もかかって真剣に論議して積み上げてきたんです。

それを、そう言っちゃ失礼だが、選挙期間中は何日ありましたか。1年も2年も選挙期間ないでしょう。確かに、あそこの場所じゃないほうがいいという人がいるというのは、私も承知しています。だけど、市民の総和として、意見としてどうなのか。今、そこに傍聴に来ている人たちだって、そうですよ。発言時間が46分しかないけど、勝浦市芸術文化団体連絡協議会名簿を読み上げましょうか。

全部で26団体、252名が参加しているんです。この人は、基本的にはこぞって早くつくってくれと。ことしも小学校の体育館で寒いのに、楽屋もない。市の行事の勝浦市文化祭。踊りやる

人なんか、楽屋がなくて着物が取りかえられないじゃないかよとブーブー言いながら、でもやろうよと。再来年建ててくれるんだってね、我慢して、こけら落としで張り切って踊ろうじゃないかと、こうやっているんですよ。その前は武道館の柔剣道場使わせてもらった。ところが、私は市民コーラスに属しているんだが、幾ら大きい声で歌ったって、畳に吸い込まれちゃって全然声が聞こえなかったり、それでも市の行事だから参加しようとやっているんです。

そのほかに勝浦市が公民館で公民館教室というのをやりました。その卒業生が、せっかく公民館教室で学んだ生け花とか手品とかその他の教室で学んだものを、せっかくだからサークルつくって自主的にやろうとやっているのが76団体、703名います。この人たちだって、早くつくってもらいたいね、そこでやりたいねと、こう言っているんですよ。それは市民の声じゃないんですか。それは何をやるんだって、賛成反対ありますよ。しかし、トップに立つ市長が全体を見ながら、そうかということで決断すべきではないのではないのでしょうかね。私はそう思います。

もう一つ言いたいのは、これも重大な問題なんです。今、市長がみずから立てた予算の内訳を見ますと、これは私が言わなくても十分ご存じだから、釈迦に説法で失礼けども、その予算の根拠は、都市再生整備計画事業なんです。その一環で市民文化会館建設事業なり、観光道路の整備事業が4本あり、道路側溝整備排水事業があり、朝市サミット開催事業があり、勝浦朝市整備事業があり、まちづくりワークショップ開催事業、幾つもあるんです。それが合わせて15億9,893万4,000円の事業です。

大ざっぱに言って16億円として、この都市再生整備計画事業の16億円のうち6億5,000万円ほどは国からおりてくるんです。これは私が言うまでもない。10億円が自主財源で起債を起す。その中で充当率のかなり高い起債で、借金をされますから、会館建設のために既に2億円積んでいますね。そういうものを使いながら、新たな生金というのは数億円なんですよ。しかも、2カ年継続事業ですから、財源手当は十分ついているんです。

もう一つ重大なことは、既にさっき言った解体工事だとか観光道路だとか、その他の1億9,647万8,000円はこの補助事業の中で平成22年度に使っちゃっているんです。これをやめたといった場合に、補助金の性質上、これを返納しなければいけないんです。しかも、この事業をやめたということは、箇所づけを決めてあるものをやめるんですから、ほかへこのお金を振り向けて、何か月後、あるいは1年後に使えるかという、一たんペアになっちゃうんですよ。そうした場合に、この先、こういう手法でどういう補助金があるかまで見越して、市長はその辺で見直すということをしてらっしゃるか言ってらっしゃらないかわからないけれども、恐らくこれをやめたら、今後、何年先に市民の憩いの場とか、文化の場とかよりどころができるかわからないと思うんです。だから、そういう点も十分考慮に入れていただきながら、検討していただきたいと思います。

もう一つ、私的なことを言って悪いんですけど、こんなことを議会で言っていないかわからないんですけども、市長は選挙パンフレットの中で玉川大学出身と言われている。私、勝浦中学校出身なんですけど、中学卒業のときに飯沢耕作という恩師が、あの当時、玉川学園というのがありました。おまえはそこの高校へ行けと言われてたんです。なぜ行かなきゃいけないんだと恩師に聞いたら、玉川学園創設者の小原國芳氏は全人教育というのを標榜しているんだと。つまり体力も知力も徳育もすべてバランスのとれた人間を形成する、そういうことを目指してや

った学校なんだと。全人教育というのを徹底的に中学3年でたたき込まれた。飯沢耕作という教師は、バランスをとった子供を育てるんだという一つの哲学を持っていたんです。いまだに頭から離れない教師です。山口市長も玉川大学の卒業生であるならば、そういう創設者の哲学が、あるいは教育的哲学が脈打っていると思うんです。

そういうことから言うと、ただ単にお金がないから、厳しいから節約するなんて、節約することは大事ですよ。でも、食べることも人間大事だが、情操を豊かにして、気持ちを豊かにして生活していくというのが人間じゃないでしょうか。食べることも大事だと同時に、ある場合には、それ以上に気持ちを豊かにする、つまり社会教育も大事だろうと思うんです。

説教がましいことを教育の専門家に言ってまことに失礼ですけど、登壇して冒頭に率直に質問しますと言ったのは、そういう意味なんです。ですから、何だこのやろうと思わないで聞いていただきたいんですが、そういう気持ちがしていますので、これをやめるとか、場所を変えるとかといったら、今度、財政当局だって、その他のセクションだって、さっきも前々段者が、地方自治体の勝浦は27%しか自主財源、市税がないと。そのとおりですよ。そんなの当たり前なんです。昔からそうなんですから。3割自治。だから、地方交付税という制度があって、千葉県に不交付団体なんて幾つもないです。その中でやっているんですから、そのときに今度は違う市内の港を直す、その他をやるといったって、国県の補助金をもらいに行ったら、勝浦はせっかくつけたって、途中で風の吹き方が変わったら、やめましたから要らないですよと言わないですかと言われたら、どうしますか。この財源をペアにしちゃったら、勝浦市の信用失墜ですよ。財源手当ついていて、5年計画でワンパックで、平成23年度これだけ、平成24年度、25年度これだけと割って提出してあるのが認められたわけですから、それを要りませんよなんて言ったら、これは将来、勝浦市はえらいことになっちゃいます。それまで含めて、ぜひ考えていただきたい。

市民の多くの意見を聞くことはやぶさかではないけれども、そのほかの意見も含めてぜひ聞いてください。前市長もよくやったが、悪いところは、選挙の最初の年だけ各部落懇談会をやって、あとの年は全然やらなかった。山口市長には毎年でもいいから市民の中に入って行って、そういう座談会やって、市民の声を絶えず吸い上げていただきたい。私は諸手を挙げて賛成します。議員をやめても諸手を挙げて賛成します。市長が選挙期間中に聞いた意見も市民の貴重な意見です。それは軽んじてはいけませんけれども、同時に私が今言ったような、700人、800人の意見も立派な市民の意見なんです。そして、我々は本当に真剣になって10回も20回も回を重ねて、各団体の長が各団体に持ち帰って、皆さんの意見を聞きながら、また持ち寄って積み上げた結果が今日に来ているということも、絶対に忘れずにいただきたい、こういうふうと思うんです。そういう点について、再度、ご答弁いただければと思います。以上です。

○議長（板橋 甫君） 午後2時20分まで休憩いたします。

午後2時06分 休憩

午後2時20分 開議

○議長（板橋 甫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 児安議員からのご質問、おっしゃられること、よくわかります。前藤平市長

を初め、議員の皆様方、役員の皆様方が十分協議され、ご判断された結果、今の場所にということも十分わかります。また、今の場所に建設をすることに賛成の方も多くいらっしゃることもよくお聞きしました。反対する方もいらっしゃるということで、そういう中で賛成の方、反対の方、再度いろいろな意見を聞く中で、国の補助、また予算等を検討して、早急に結論を出したいと思います。ただし、建てないということじゃございません。あくまでも場所の検討をさせていただきたいということでご了解いただきたいと思います。以上です。

○議長(板橋 甫君) ほかに質問はありませんか。児安利之議員。

○14番(児安利之君) 答弁を聞きました。もう一つ、今度の会館の場合、検討したのは、今までの旧館は海側に正面玄関になっていて、すべて海側から入るようになっていました。今度の予定される設計のもとにつくられる会館は、海側は全部遮閉します。遮閉してもガラス張りになって、外側から中が見えるようにと、当初の計画のとおりに行くとする、多分そういうことになるのではないかと思います。入り口は全部丘側になります。車で来た人がずっと駐車場に入って、丘側の、つまり北側の入り口から入るようにする。徒歩で来た人はどうなるかという、三日月の前の道路のところから、今で言えば市民会館の裏になりますね。そこから正面に入るようになるというような計画で多分進められていると思います。

そこまで配慮しているということが一つと、もう一つは、確かに町なかの駐車場用地は少ないんです。ただ、四六時中ビッグひな祭りのときのように、あるいはカツオまつりのときのように、勝浦市で当面、ここ二、三年、あるいは四、五年、あるいは10年先かもわからないけど、365日そんなに観光客がわいわい入ってくるでしょうか。恐らく、イベントのときだけそういうふうにごった返すのであって、ふだんは、確かに朝市に来る人に若干の不便はあるにしても、ウイークデー、もの日でないときを見ていただければわかるように、そんなに決定的な駐車場不足ということには今なっていないんです。ですから、さっき市長がおっしゃったように、少しずつ増やしていきたいんだと。これは正解だと思うんです。だからといって、一挙にあそこを全然計画変更して駐車場オンリーにするということは、余りにも無謀ではないか。

今、建設しようとしている設計でも100台の駐車場は用意されます。場合によっては、よくある2階建ての駐車場にすれば、150台はとめられると思います。民間の駐車場で2階建ての駐車場がよくありますね。市長が申し入れもしてあるし、何とか確保したいという警察署の跡地の場合もあるし、そのほかに空き地等の契約もあるでしょう。でも、もう一つ抜本的に発想を変えていただきたいのは、決定的に勝浦は平らみが少ないということなんです。ではどうするのか。その平らみを幾ら探しても、限界はあります。では、鎌倉はどうか。あれだけごちゃごちゃしていたって、あれだけ人が入ってくる。勝浦市は新坂の坂上に、まだ市有地を持っています。今の財政状況では運動公園を一挙に進めようというところに、財政的に見通しは立たないでしょう。そういうところを若干改良してバスのターミナルに使うということも不可能ではない。だから、山の手駐車場用地をつくって、下町とそこの間はどうするのか。それこそデマンドのタクシーとか、あるいは市民バスをもっと充実させるんだと市長は言っているわけですから、たまたま仙台に旅行したときに、仙台は駅前に市営のバスが何台もとまっていて、名所旧跡を10分か15分置きぐらいにぐるぐる回って、またターミナルに来る。だから、そういう上と下の足を市がつないで、100円取ってもいいでしょう。乗り放題100円だでもいいでしょう、ただでもいいでしょう。そういうものを活用しながら、発想を切りかえて、下に駐車場だけ

やなくて、上に空き地が十分あるわけですから、そこを活用して何とかやると。上にとまった人が、そのバスでおりにきて、町なかぶらぶら歩いて、ワカメ買うのもいいでしょう。アジのひらきを買うのもいいでしょう。お菓子買うのもいいでしょう。ぶらぶらしてもらって、いつでもそのバスで帰って行って、上から帰っていただくということも一つの発想ではないかと思うんです。だから、あくまでも下の市街地ということにこだわらないで、いろんな可能性を選択して、考えていただきたいと思っています。

また、これも余分な話で申しわけないんですけど、新市長のお父さんに28年近くおつき合いいただきましたと、こう言いました。最初に政治的立場はどうするんですかと言ったら、私は何党であろうと、勝浦市のためになるならば、どんな意見でも取り上げるよと、こう言っていました。恐ろしいなと思ったのです。お父さんと全く同じ意見なんですね。

実例一つ言うと、児安君よ、おれは、何党もくそもないんだと。勝浦市民のためになるのならば、その意見が市民のためになるならば、どんな意見でも取り上げるよと。その一つの卑近な例は、変な話ですけど、山口吉暉は自民党保守本流のこちこちだと思っていた。そうしたら、あるとき、当時、新進党の市原のほうから出ている岡島代議士の応援演説でマイク持って町なかで応援演説が始まっちゃったんです。後で何だっけ聞いたら、武道館研修センターを引っ張ってくる上で彼に貢献してもらった。だから、勝浦市のためになった人だから、おれは応援するんだと、こう言って、自民党勝浦支部の人が慌てふためいた一場面を覚えています。事ほどさように、彼はそういう立場をとった。ある意味、非常に度量のある人だなど、そのとき率直に思いました。私と政治的立場は違うけれども、そういう立場でトップとしての行政上の手腕を発揮されました。

もう一つ、逸話を言ってみましょうか。おれはな、大学へ行ったけれども、教科書を一回もあけないからきれいになっていったと。うちの女房が、おとうさん、あなた、勉強したんですかと。おれは勉強なんかしないと。でも、政治家はいろんな細かいことは事務方に任せればいいんだと。おれは勝浦市の将来の方向を見誤らないように、それだけを心してやっているんだと、こういうふうに言っていました。なるほどと。それがトップとしての度量であり、器だなど、そういう意味では感服しました。ですから、さっきの答弁を聞いて、そのことを思い出したのです。

こういうところで言うべき話ではないかもしれないけれども、あえて、そのこともつけ加えさせていただいて、熟慮していただいて、私たちが期待するような結論をぜひ出していただきたいことを、本当は質問だからお願いするというのは筋違いですが、あえて今日はそのことをお願いして、質問を終わります。以上です。

○議長（板橋 甫君） これをもって児安利之議員の一般質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 続きまして、根本 譲議員の登壇を許します。根本 譲議員。

〔6番 根本 譲君登壇〕

○6番（根本 譲君） 執行部の皆様、また、同僚議員の皆様、早朝より大変ご苦労さまでございます。私が最後でありますので、どうかよろしく願いいたします。

一般質問する前に、去る3月11日に起こりました東日本大震災で犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を表するとともに、各地での一刻も早い救助活動の進展、すべての被災者の方々の無事を深く念願いたします。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

まず初めに、市長の政治姿勢について伺います。

質問の1点目は、マニフェスト全般についてであります。マニフェストは、政権公約と訳され、これまでの選挙公約とは違い、選挙民と政権との間で交わされる公約というより、むしろ契約と言えるものであり、大変重いものであります。しかし、現在の民主党政権では、重いはずのマニフェストが軽く扱われているのではないかと感じざるを得ません。これまでマニフェストと言えば、民主党の代名詞のように言っていましたが、一昨年の政権交代をもたらした衆議院選挙におい掲げたマニフェストのほとんどが実現不可能になっています。

まず、マニフェスト実現のための財源は、予算の組み替えや無駄の削減で十分できると言っていました。実際には平成23年度必要財源の12兆6,000億円のうち3兆6,000億円の財源確保にとどまっております。そのため新年度予算では44兆3,000億円の新規国債を発行せざるを得なくなり、2年連続で税収を上回る国債を発行するという異常な事態を招きました。

目玉政策であった子ども手当は、満額の2万6,000円の支給も断念され、ガソリン税の暫定税率廃止も見送られ、高速道路無料化のめどが立っていない状況にあります。

また、年金制度の一元化や最低保障年金などの年金改革もさきの国会の議論により、制度設計に全く手をつけられていないことが明らかになりました。

うば捨て山と批判してきた後期高齢者医療制度も、結局、平成25年3月まで現行制度を維持することになっています。今や閣僚の間や民主党内からマニフェストを見直す声も出ているようであります。このことから、今やマニフェストというと不信の目で見られるようになった、民主党の罪は重いと、小峰隆夫法政大学教授は述べています。

マニフェストは、先ほども述べたように、国民と政権の契約であります。マニフェストを見直すのであれば、当然、契約不履行であり、みずから掲げたマニフェストの現実状況を明らかにした上で、国民に信を問うべきであります。

さて、市長は、マニフェストを掲げて選挙戦を戦われ、5,141票に表明された市民の負託にこたえて、新たなまちづくりの先頭に立って奮闘されるよう期待するものでありますが、今後の市政運営について、マニフェストに基づくまちづくりについてお伺いいたします。

1、勝浦の自然、環境を守るについてであります。今、勝浦市が直面する問題であります。鵜原地先に建設予定の産業廃棄物最終処分場建設計画であります。市長は、明確に反対の意思を表明されておりますが、事業者は9月までに千葉県から通知された審査指示事項の完了を目指していることと思われ。市長の姿勢が問われるところでもあります。この問題をどう対応するお考えなのか、お聞かせください。

2、地域産業の振興の中に市街地の駐車場整備を推進しますとありますが、これは観光でアピールしている勝浦市の最重要課題であります。ビッグひな祭りにイベントボランティアとして参加した折、車の中から近くに駐車場はないですかとよく聞かれます。また、高齢の方々が武道館駐車場に行くために、塩田病院の後ろの坂を息を切らせながら上る姿を目にします。

市街地の駐車場整備を推進しますとマニフェストにうたっているということは、市長には腹

案でもおありになるのかお聞きしたいところでもあります。

3、現役世代、子供たちが定住し、安心して暮らせるまちづくりの中で、企業誘致を近隣自治体と協力して行います。これは難しい問題であると思いますが、市長の意気込みが伺えるものであります。ただ、企業を誘致しました。しかし、働く人の住まいが勝浦ではなく、近隣の市町村に流れたりしたらどうしますか。マニフェストに企業誘致を入れるのであれば、市営住宅の建てかえを入れるべきです。旭ヶ丘は、今、順次やっておりますが、老朽化した梨ノ木団地、万名浦団地の建てかえも考えるべきでありますし、旭ヶ丘のように一戸建ての住宅も必要と思われませんが、どうか、市長のお考えをお聞かせください。

また、子宮頸がんワクチン接種の全額補助であります。平成23年度までは国が2分の1、市が2分の1で、実質、全額補助になったことは2月の臨時議会で決まりましたが、平成24年度以降は市が全額補助をすると解釈していいのか、どうなのかお聞きしたいところでもあります。

4、医療、健康、福祉のサービスの充実で、高齢者のための買い物代行サービスを支援しますとあります。今、勝浦市の中でも、核家族化が進み、地域のつながりが弱まり、無縁社会が叫ばれる中で、近隣の商店街の衰退や小売店の撤退などにより、日常の買い物に困難を来す高齢者が増加しております。こうした買い物弱者に対する対策を講じますということだろうと思います。これは評価できるものであります。その上で小売業者などの事業者から宅配サービスや移動販売のアイデアを公募して、モデル事業として実現可能性、採算性を検証しなければならないと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

インフラ整備についてお聞きします。圏央道のアクセス向上、国道128号線と国道297号線の乗り入れの改良、JRの複線化やエレベーターの設置、上水道の未普及地域の解消と4項目ほどありました。難しい問題であります。藤平市政のときもできなかった大きな問題であります。それぞれをどうクリアしていくのか、大筋の腹案があるのならお聞かせください。

最後に、これらを行うためにも役所の事務事業を徹底的に見直し、無駄を減らします。市長、特別職の給与は20%カットしますと書いてありました。

さて、私の質問の冒頭でも言いましたが、現政府はマニフェスト実現のための財源は、予算の組み替えや無駄削減で十分捻出できると言いながら、できなかったのです。果たして、市長が言ったとおりに事務事業を見直し、無駄削減、市長、特別職の給与20%削減でできるのかどうか疑問です。また、これらの項目を実現することにより、市民にしわ寄せが来るのではないかと、市民サービスの低下になるのではないかと懸念するものであります。どうお考えか、お聞かせください。

次に、防災対策についてお聞きします。先日、旭ヶ丘団地がある沢倉にお住まいの方から意見がありました。あの付近には防火水槽はあるが、消火栓が通ってないと。何とか消火栓を通してもらいたいという要望であります。この要望をきっかけに、私自身、火災対策について考えてみたいと思いました。季節的にも、毎年12月から翌年の4月にかけて、全国的に最も火災の増加する時期でもあります。住宅火災で亡くなった人を年齢別に見ると、65歳以上の高齢者の占める割合が半数以上を占めております。今後、さらに高齢化が進むことを考えると、被災者を減らすため、住宅における対策を早急に進める必要があるのではないのでしょうか。

また、消防水利について考えたいと思います。消防水利とは、消火栓や防火水槽、河川、池など、消火活動を行う際の水利施設を示すものであります。その中でも消火栓はふだんは

ほとんど目立っていない存在ですが、火災発生時にはなくてはならないものです。市内の消火栓の設置状況は、勝浦市地域防災計画を見ればわかるのでありますが、未設置地域はどのくらいあるのか、お聞かせください。また今後、設置計画があるのなら、答弁をお願いしたいと思います。

次に、不登校、引きこもり対策についてお聞きいたします。

今の教育制度では、不登校になった子供たちも義務教育を過ぎると、学校の勉強はしなくても、当たり前のごとく卒業となります。すべての子供たちは、平等に義務教育を受ける権利を持ちながら、実態的にはなし得ていない現実があります。重要な教育テーマの一つである人間としての平等と共生は、行政にとっても大切なことでもあります。

横浜市は、今年度からいじめや暴力行為、不登校などに専門的に対応する児童支援専任教師を配置することになったのです。児童支援専任教師は、学級担任にはならず、授業が軽減、または免除され、学校が抱える問題への対応に専従する小学校教員です。配置の背景には、いじめや不登校、発達障害、日本語指導の必要性など、児童を取り巻く課題が多様化し、行動や学習に特別な支援を要する子供たちが増加している実態があるからであります。

本市においても、子供たちのために先生方が尽力されていることは重々承知しております。しかし、限られた人員で多様化する子供たちに目が届かないのも実態ではないでしょうか。

学校生活の中で、いじめや不登校になっている子供たちの支援に全力を期すべきと思われませんが、どうでしょうか。教育長の答弁をいただき、登壇での質問を終わります。

○議長（板橋 甫君） 根本議員に申し上げますが、根本議員の通告におきましては、市長の政治姿勢ということで3点の通告がなされております。その1点は地域産業の振興について、もう一点は医療、健康、福祉サービスの充実について、特に高齢者の買い物代行サービスについて、もう一点は、インフラ整備について、これはJRの複線化の促進について、この3点が通告になっておりますので、その通告に従っての答弁でございますので、その点をご了解をいただきたいと思えます。市長から答弁を求めます。山口市長。

〔市長 山口和彦君登壇〕

○市長（山口和彦君） ただいまの根本議員の一般質問に対し、お答えいたします。

初めに、政治姿勢について、1点目の地域産業の振興についてということで、特にプレミアム地域商品券についてのご質問ですが、地域経済の活性化、市民生活への支援ということで、プレミアムつきの地域振興券を発行し、経済対策として取り組んでいけたらと考えます。財政等非常に厳しい中ですが、関係団体と十分協議しながら、プレミアムのパーセント、方法等を検討し、取り組んでいけたらと考えます。

2点目の医療・健康・福祉のサービスの充実ということで、特に高齢者のための買い物代行サービスについてですが、勝浦市は少子高齢化が進んでいます。そういう中で、高齢者の方々が安全で安心して生活できるまちづくり、高齢者の消費ニーズに対応するだけでなく、高齢者の安否確認を含めて地元の商工会・商店街の皆様のご協力をいただくとともに、生活支援訪問介護事業につきまして、関係機関の方々と十分協議し、より一層の充実を図ってまいりたいと考えます。

3点目のインフラ整備、JRの複線化についてですが、確かに今のJRの現状、利用客の状況から考えたら、非常に難しいことです。ですが、難しい、できないと手をこまねいてたら、

何もできません。今、勝浦市で近隣の市、町との連携・協力してできることは何かということを考えていく、また、取り組んでいくことが大事だと考えます。

ビッグひな祭りもそうかと考えます。さらに観光を活性化させ、勝浦を訪れる客を増やす取り組みとして、商工会青年部の皆さんの勝浦タンタンメンの活性化に向けての取り組みを初め、いろいろな組織の方々が取り組んでいる活動等多くあります。ぜひ、連携を図りながら、JRの利用の促進、あわせてイベント列車や市民旅行の計画等、取り組んでいく中で、積極的に県、国、JRへの働きかけを進めていく、時間はかかるかもしれませんが、今できることから取り組んでいきたいと考えます。

次に、防災問題について、旭ヶ丘市営団地に消火栓の設置をしてもらいたいとの要望があるが、市の考えをお聞かせくださいとのご質問ですが、旭ヶ丘市営団地内の消火栓設置につきましては、消防法第20条第1項の規定により、定められた消防水利の基準によれば、消火栓は呼称65の口径を有し、直径150ミリメートル以上の管に取りつけられていなければならないと規定され、ただし、管網の一边が180メートル以下となるよう配管されている場合は、75ミリメートル以上とすることができるとされており、旭ヶ丘市営団地の管は40ミリメートルでありますので、現状では設置は不可能であります。現在、旭ヶ丘市営団地には容量64.5立方メートルの防火水槽がありますので、これにより対応しているところであります。

次に、市内の消火栓未設置地域及び設置計画についてのご質問ですが、市内の消火栓未設置地域につきましては、上水道の未普及地域が未設置となっておりますので、今後、上水道の普及にあわせて設置を検討してまいりたいと考えております。

消火栓未設置地域については、防火水槽や河川等の自然水利で現在は対応しておりますが、いずれにしましても、消防水利の基準は市町村の消防に必要な最小限度の水利について定めたものでありますので、さらに充実を図ってまいりたいと考えております。

以上で根本議員に対する一般質問の答弁を終わります。

なお、不登校・引きこもり対策につきましては、教育長より答弁いたしますので、よろしく申し上げます。

○議長（板橋 甫君） 次に、松本教育長。

〔教育長 松本昭男君登壇〕

○教育長（松本昭男君） ただいまの根本議員の一般質問に対し、お答えいたします。

不登校・引きこもり対策についてであります。いじめはどの学校でも、どの子供にも起こり得る問題であり、日ごろからいじめを許さない学校づくりに努めるとともに、いじめの兆候をいち早く把握して、迅速に対応し、また、いじめの問題が生じたときは、その問題を隠さず、学校、教育委員会が家庭・地域と連携して適切に対処するよう指導しているところであります。

不登校につきましては、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたものと定義されております。

このような不登校の理由として、学業不振や友人関係といった学校生活の問題、無気力といった本人にかかわる問題、さらには家庭環境など、不登校の要因・背景は多種多様であり、複雑に絡み合っている場合が多いと言われております。

また、いじめや不登校になった子供に対応するため悩んでいる保護者もおり、家庭において

引きこもりとなっている若年層が多いことも承知しております。

このような状況の中、本市においては各小中学校のいじめや不登校の現状を把握するため、年5回のいじめ問題実態調査や、毎月、長期欠席児童生徒状況調査を実施するとともに、いじめや不登校の状況によっては、教育委員会に在籍する学校教育指導員が学校を訪問し、管理職や学級担任と対応についての協議や情報交換など、早期発見、早期対応する体制を構築しております。

また、各学校においても養護教諭や学級担任による教育相談や家庭訪問など、学校と家庭の連携を図りながら、きめ細かな生徒指導に努めるとともに、教職員一人ひとりが不登校やいじめ問題についての意識の向上を図り、未然防止と早期発見、早期対応に努めているところでございます。

さらに、市内中学校には県から派遣されたスクールカウンセラーがいじめや不登校に悩む生徒や保護者の相談活動をするなど、心のケアに取り組んでいるところでございます。

なお、勝浦小学校には、児童の悩み相談、家庭・地域と学校の連携の支援、いじめや不登校を早期発見するため、市単で子どもと親の相談員を派遣しているところでございます。

今後も各学校におけるより一層の教育相談活動の充実を図り、いじめや不登校の解消に努めてまいりたいと考えております。

以上で根本議員に対する一般質問の答弁を終わります。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 譲議員。

○6番（根本 譲君） 議長にお願いがあります。若干、通告とは違いますが、今回の東北沖の災害について要望といいますか、もしお答えいただければいいんですが、そういった質問が若干ありますが、よろしいでしょうか。

○議長（板橋 甫君） 質問を許します。

○6番（根本 譲君） ありがとうございます。それでは、最初に、冒頭に述べました今回の地震の災害であります。先ほど同僚議員からこの緊急支援態勢を順次行っているということ伺いました。私、勝浦市内の住民の方が被災地にいると。全く連絡がつかないで、かなり困って、きのうの時点も連絡がつかなかったと。そういった相談ごとがありまして、ライフラインも全く破壊され、電話等もつながらない状況でありました。勝浦市内でもこういう方がかなりいらっしゃるんだろうと。そういう方に市としても、勝浦市の住民の関係者の被害状況の把握だとか、はたまた、自治体、行政でありますので、そういったプロジェクトチームをつかって、その方たちの手助けをしてもらいたいと思うのですが、その点、もし答弁をいただければ、お願いしたいと思えます。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。玉田環境防災課長。

○環境防災課長（玉田忠一君） お答えいたします。ただいまのご質問にありました市内の住民の方の関係する被害者の状況の把握等、プロジェクトチームをつくる考えはないかというご質問ですが、それにつきましては検討はしたいと思えます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 譲議員。

○6番（根本 譲君） ありがとうございます。当然、対策チームをつくりますとか、そういったものはなかなか難しいだろうと思えます。ただ、勝浦市の住民の中にそういう方が多数いるということも、どうか皆さんも承知していただきたいと思えます。ましてや、いまだに連絡がとれ

ないという方に対しましても、近所の方もフォローするべきでありますし、できれば、市もそういった態勢もとっていただきたいと思います。これは要望でありますので、結構です。

今回の質問で、当初考えていた質問とは大幅に変わりますが、マニフェスト全般ということで、その中で何項目か出したわけでありましたが、山口市長は12月1日から一日も休むことなく勝浦市内を政治活動をして、皆様の話を聞いてつくったものであると、前段者、前々段者、またその前の方の話を聞きました。であれば、通告とはまた違って、マニフェストでありますので、市長の気持ちがあるのであれば、答えられるんじゃないかと、そう思ってあえて質問させていただきました。決していじめたわけじゃありません。市長がつくったものであろうと確信しておりますので、市長に答えてもらえるんだろうなと思っておりましたが、非常に残念であります。

私は余りこういう言葉を使いたくないのですが、方向性を変えまし、まず地方主権について考えてみたいと思います。地方分権の進展によりまして、市民に身近な課題は身近に行う体制が整うとともに、地方が責任を持って行政課題に取り組む地方主権の時代に入っていると思います。市民生活の生々しい現状が一番よくわかっているのが地方自治体であります。現実に対応した政策を保有しているとも考えられますし、国の政策立案過程において、今こそ地方が物申す時代であると思われませんが、どうでしょうか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 質問がよくわからなかったのですが、とにかく市の状況の中で、先ほど根本議員おっしゃったように、勝浦市内いろいろ回らせていただく中で、それぞれ勝浦市の課題というのが見えてきました。そういう中で、地域に密着した取り組みとして、高齢者への支援、子育て支援、今日も話をさせていただきましたけども、極力、そういう面に向けて、市民バスの運行路線の確認とか、買い物代行サービス、また子育て支援としまして、保育園の統合等を考えながら、送迎対応、また保育時間の延長等を検討していく中で、その対応に当たっていきたくと考えております。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 譲議員。

○6番（根本 譲君） 地域産業の振興という点でお聞きしたいんです。勝浦を全国に発信していく上で、勝浦らしさを明確にして、そこで特徴づける取り組みが必要と考えております。風光明媚なリアス式の海岸線や食文化、または歴史文化の薫るブランド力の豊かな観光資源も全国に誇れる一つかもしれませんが、気候的に穏やかであり、大雨や災害による被害も少なく、比較的安心して暮らせる天然の条件を勝浦は備えていると思います。このことから、安心して暮らせるまちづくりというテーマで、まちづくりをアピールしていくことも重要でありますし、これまで防災の取り組みを初めとして、だれもが安心して安全で快適に暮らせるまちづくりに力を注いでこられたことも事実であります。

しかし、現代のストレス社会の状況にあって、うつ病によつての自殺、または児童虐待の取り組みも安心して暮らせるまちづくりではないでしょうか。特に、観光で言いますとヘルスツーリズムというのがあります。勝浦には温泉を初め、森林や海浜などの自然環境が健康に良好な影響を与えることは周知の事実であります。温泉で滞在する湯治が、都会から離れて、自然に恵まれた地域を訪れることも、現代において健康にかかわる観光の代表の形態であると思っております。その点で勝浦には、今、イベントとして勝浦市外の方を多数呼んでおりますが、

年間を通してのそういった勝浦のアピールという点では、この自然を利用した、ましてや集客と申しますか、それも一つの手だろうと思っておりますが、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今の根本議員の質問に対しまして、地域産業の振興ということでいろいろな角度から勝浦市を見直していく中で、それぞれの担当の課等と検討しながら活性化を図ってきたいと考えます。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 議員。

○6番（根本 譲君） ありがとうございます。では、消防について若干お聞かせください。消防法第20条第1項に「消防に必要な水利基準は、消防庁がこれを勧告する。」とあります。同第2項は、「消防に必要な水利施設は、当該市町村がこれを設置し、維持し及び管理するものとする。但し、水道については、当該水道の管理者が、これを設置し、維持し及び管理するものとする。」とあります。市内の消火栓について消防庁の勧告に沿ってきちんと設置されているのか、お伺いいたします。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。玉田環境防災課長。

○環境防災課長（玉田忠一君） お答えいたします。消防法第20条、「消防に必要な水利基準は、消防庁がこれを勧告する。」「消防に必要な水利施設は、当該市町村がこれを設置し、維持し及び管理するものとする。但し、水道については、当該水道の管理者が、これを設置し、維持し及び管理するものとする。」、水道法によりますと、第20条第4項で「水道事業者は、当該水道に公共の消防のための消火栓を設置しなければならない。」「市町村は、その区域内に消火栓を設置した水道事業者に対し、その消火栓の設置及び管理に要する費用その他その水道が消防用に使用されることに伴い増加した水道施設の設置及び管理に要する費用につき、当該水道事業者との協議により、相当額の補償をしなければならない。」と規定されております。消火栓等につきましては、上水道の整備に伴い、消火栓を設置しているところであります。以上です。

○議長（板橋 甫君） 暫時休憩いたします。

午後3時07分 休憩

午後3時20分 開議

○議長（板橋 甫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ほかに質問はありませんか。根本 議員。

○6番（根本 譲君） 最後の不登校、引きこもりについて質問させていただきます。教育長からスクールカウンセラー、また、子どもと親の相談員等を設置して対応しておりますということをお伺いしました。今現在、勝浦市内の小中学校の中で不登校生徒は何人ぐらいいるか、把握されておるのでしょうか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。中村教育課長。

○教育課長（中村雅明君） お答えいたします。現在、市内小中学校のいじめ件数、不登校の件数でございますが、いじめの件数は昨年度、小学校で3件、中学校で10件でございます。本年度は小学校3件、中学校4件となっております。昨年度に比べ、減少しております。不登校の児童生徒数につきましては、昨年度、小学校1名、中学校7名でございます。本年度は、小学校の

不登校児童はなく、中学校6名となっております。昨年度に比べ、減少しております。今後とも不登校等の子供に対しても十分に指導するよう指導してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 議員。

○6番（根本 譲君） 数的には掌握しておるんです。わかりました。この不登校が今、小学校でゼロ、中学校で6名ということで聞きましたが、私が知っている範囲では数字が違うなという気がします。しかし、学校でそうやって掌握しているんでしょうから、恐らくそちらのほうが正しいのかなと。

お聞きしたいんですが、中学校教育についてでありますけども、中1ギャップという言葉、ご存じでしょうか。小学校6年生から中学校1年生に進んだ際、環境の変化にうまく対応できないで不登校や学力低下となってあらわれて、また、これがいじめ問題にあらわれるという特徴を、中1ギャップと初めて表現したらしいです。これを最初に命名したのは新潟県の教育委員会だったそうですが、この中1ギャップ、要は小学校から中学校に入るときに、小学校から2校ないし3校が一つの中学校に入る中で、子供たちの生活環境が変わる中でなじめない、そういったものが中1ギャップと言われているものであります。

先ほど言われましたが、勝浦市内でも6名の不登校児がいらっしやると。これはまさに中1ギャップであろうかなと思っております。中1ギャップ解消をする取り組みというものは、先ほど言っておりましたけども、スクールカウンセラーと子どもと親の相談員制度で対応しているということではありますが、内容的にこの6名の方が学校に来られる、または過去において不登校のまま卒業されるようなことがなかったのかどうなのか、それをお聞きしたいと思います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。中村教育課長。

○教育課長（中村雅明君） お答えいたします。議員ご指摘のとおり、不登校につきましては、中学校1年生で急に増えるという全国的な傾向があるということは認識しております。これにつきましては、大変憂慮する教育課題であると受けとめております。このため、生徒が順調に中学校生活を始めることができるよう、小学校と中学校の円滑な接続を図ることが極めて重要であると認識しております。そのための解消に向けての研究を今後してまいりたいとは思っております。

また、不登校のまま卒業した生徒はいるのかどうかというご質問でございますが、不登校、30日以上欠席ということでございますので、そのまま卒業した生徒は過去にはいます。以上でございます。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 議員。

○6番（根本 譲君） ありがとうございます。この中1ギャップを解消するに当たり、新潟県の例なんですが、中学校の教員が小学校に出向く出前授業、または複数担任制の実施、こういう取り組みをして、中1ギャップの中の不登校、またいじめが大幅に抑制されたと聞いております。新潟県以外でも中1ギャップの解消に向けた取り組みが各地で行われているということを知っております。勝浦市でもそういった具体的な取り組み、教育カウンセラーと子どもと親の相談員制度も確かにそうではありますが、この数が減っていくとは思えない。先人的例でありますけども、こういった新潟県の小中学校の先生の交流、出前授業等を考えたらどうかなと思っておりますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。中村教育課長。

○教育課長（中村雅明君） 勝浦市におきましても、これは県下全体でございますが、現在、小中間の教諭の交流ということで人事交流が始まっておるところでございます。また、中1ギャップにつきましては、近隣の鴨川市立長狭学園で小中一貫校、小中一貫のカリキュラムを組みまして研究発表等ございました。その際、この中1ギャップ等の問題がございますので、私のほうで研究発表会に行きまして、この中1ギャップへの対応に向けた小中一貫校の実態を視察してきたところでございます。以上です。

○議長（板橋 甫君） 根本 議員。

○6番（根本 謙君） 小中一貫教育というのは私も若干知っているのでありますが、この教育は今、モデルケースとして行っていると理解してよろしいんですか。それで、このモデルケースを見て、生徒一人ひとりを指導するに当たり、環境が変わらないという連続性がありますね。そういったものでかなりプラスな効果があらわれているのかどうか、お聞きしたいと思います。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。中村教育課長。

○教育課長（中村雅明君） お答えいたします。これは隣の鴨川の長狭学園の例でございますが、平成23年度から小学校には外国語が導入されますが、長狭学園におきましては小中一貫校のため、中学校の教諭が小学校に赴きまして、先ほどご指摘のとおり、ティームティーチング、要は外国語の指導を一緒になってやっていると。そういうことから、小学校、中学校への接続がうまくいってるなという感じは持ったところでございます。とは言いましても、この小中一貫校につきましては、まだ国の制度設計がきちんとされておりませんので、今後、このことについては近隣の状況等を見守っていきたくて考えております。以上です。

○議長（板橋 甫君） ほかに質問はありませんか。根本 議員。

○6番（根本 謙君） 最後になります。これは社会人となった方の話をお聞きしたんですが、仕事をしたいけどできない若者、俗にニートと呼ばれる若者が大体不登校を経験していると。8割が就職歴はあるけども、大体アルバイトであると。5割以上が学校でいじめ、引きこもり、人間関係のトラブル、精神科、心療内科等の受診などの経験があるという数字が出ております。働きたいのにもう一步を踏み出せない、人づき合いが苦手だから就職するのが不安、仕事をやる意味がわからない、そんな悩みを抱えている若者とその保護者、そういった方の支援、相談を今後、勝浦としても、学校教育からの延長でありますので、これは一概に言えませんので、要望としてお願いしたいんですが、やっていただきたい。これは障害者手帳とか、そういったものは全く関係のない生活支援でありますので、就労、自立等に向けて、市としても何とかサポートしていただきたいと思っております。

最後になりますけども、山口市長は長く教壇に立たれておりましたことは、周知のとおりであります。私のところにも選挙の折には市長の教え子の親御さんからも電話をいただいたこともありました。教育に関しては山口市長の持論があるかと思っておりますが、最後にこういった学校教育に対する持論を披露していただいて、質問を終わりたいと思っております。

○議長（板橋 甫君） 答弁を求めます。山口市長。

○市長（山口和彦君） 今、根本議員からお話がありましたように、35年間、教職につかせていただきました。そういう中で、今、根本議員がいろいろご質問された不登校等、いろいろ問題を抱えたこともあります。そういう中で大事なことは、今は教師をやめましたが、我々大人が子供

と積極的に会話をすることが、まず大事なのかな。そういう中で感じたことは、子供たちというのは愛情が不足している面もあるのかな。そういうことを大人と子供が本気になって話し合っていく、そういう中で子供を理解できる、そういうことが私の経験の中からマニフェストの一つの中に、とことん話し合っというところを教えてくださいました。

また、子供たち同士にしても、今、少子化が進んでいる中で、1学級一けた、もしくは二、三人の学級もあります。高橋議員からも質問がありましたけども、保育園、幼稚園等で人数がいる中で、子供たち同士が切磋琢磨していく環境づくりも必要なのかなと思います。

そういう中で今後の教育というものを全面的にとらえて、勝浦市としてはそういう不登校等への対応も含めて、学校等のあり方について関係する先生方や委員会、また議員の皆様方と議論しながら、そういう対応を進めていきたいと思います。以上です。

○議長（板橋 甫君） これをもって一般質問を終結いたします。

散 会

○議長（板橋 甫君） 以上をもちまして本日の日程は全部終了いたしました。

明日3月18日は定刻午前10時から会議を開きますので、ご参集を願います。

本日はこれをもって散会いたします。

午後3時35分 散会

本日の会議に付した事件

1. 一般質問